平成２０年度

中英研会報

第６７号

東京都中学校英語教育研究会

平成20年度　行　動　目　標

都中英研の昨年度の成果をふまえながら、平成22年度に開催される関ブロ東京大会を視野に入れ、以下のように行動目標を設定しました。

1．組織の充実とその活性化を図る。
（1）　都中英研の組織がより強固なものとなるようその充実を図り、改善を行う。
（2）　都中英研の各種事業により多くの教員や学校が参画することを通して、その活性化を図る。
（3）　都中英研の諸活動が一層活発に進められるよう、各地区の部長、幹事と連携を密にし、組織としての基盤づくりに務める。

2．財政基盤の充実を図る。
（1）　従来の事業内容を見直し、経費の節減を図る。
（2）　新たな事業の展開を積極的に行い、収入源の確保を図る。
（3）　会費制の導入について、その検討を行う。

3．人材の発掘とその育成に努める。
（1）　有能な人材を発掘し、リーダー層の育成を積極的に図るとともに、英語教員全体の資質向上を推進する。
（2）　教員の資質向上を目指した研修事業を積極的に企画し、遂行する。
（3）　英語教員の養成と研修の充実を目的に、授業研究を一層活発に推進できるよう支援体制を整備する。

4．調査・研究機関の充実を図る。
（1）　英語教育に関わる基礎的事項や活動実態についての調査活動を遂行する。
（2）　英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究活動を遂行する。
（3）　平成24年度より完全実施される新教育課程に向けて、具体的な指導内容・方法について、組織をあげて研究を進める。

5．英語教育に関わる関係機関や関係団体との連携を図る。
（1）　「全英連中学部会」との関わりを一層深め、外部機関へ主体的に発信できる組織づくりを目指す。
（2）　文部科学省や東京都教育委員会との関わりをより充実させる。
（3）　その他、英語教育に関わる関係諸団体との関わりをより充実させる。

6．英語教育に関わる各種情報の収集・発信を進め、研究大会の構想に着手する。
（1）　これまでの広報媒体を活用して、各種情報の発信を行う。
（2）　ＨＰの活用を図り、それを通して各種情報の受・発信を行う。
（3）　平成22年度開催の関東甲信地区英語教育研究協議会東京大会に向け、本格的な準備を進める。

目　　次

●この一年を振り返り……備里川正人… 1
●新学習指導要領から見る今後の中学校における英語教育……菅　正隆… 2
●英語科における学習指導要領の改訂のポイント……岩崎紀美子… 4
●外国語（英語）に関する研修について……東京都教職員研修センター… 6
●小学校外国語活動と中学校外国語科との連携（9）……太田美智彦… 8
●実践研究
（1）東京都英語学芸大会Playの部　第1位……神原　幸子…10
（2）東京都英語学芸大会Speechの部　第1位……鈴木　貴子…11
（3）事業部　授業力アップ研修会　研究授業……伊地知可奈…12
（4）To overcome prepared speech－Task-Based Language Teaching－
Masanori Konno…16
（5）小学校外国語活動（英語）の実践……永嶋　昌博…18
（6）東京教師道場における2年間の研修の取り組み（助言者）…谷口　弘美…22
（7）東京教師道場における2年間の研修の取り組み（部員）……望月　光代…23
●各部報告
・総務部報告……飯島　光正…24
・事業部報告……横山　達也…25
・調査部報告……重松　靖…26
・研究部報告……北原　延晃…28
・出版部報告……池田　武男…29
・プロジェクト・チーム部報告……安原　美代…30
●研究大会報告
・第48回　十五大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会（広島大会）
田幸　徹…31
・第58回　全英連総会　全国英語教育研究会大会（鹿児島大会）
清水研一郎…32
・第32回　関東甲信地区中学校英語教育研究会（長野大会）……飯島　光正…33
●各地区の活動状況……35
●中英研事業報告……61
●中英研会則……63
●役員一覧……65
●あとがき……71

『この１年を振り返り』

～未来を見すえて～

会　長　備里川正人
（足立区立第十四中学校校長）

平成20年度も、いつもの年のように、日本でも世界でも悲喜こもごもいろんなことがあった。世界では「中国四川省の大地震」や「金融危機と景気後退」などがあり、日本では「岩手・宮城内陸地震」や「非正規社員の突然の契約解約」などがあった。その一方で、北京オリンピックでの日本人の大活躍や４人の日本人のノーベル賞の受賞は、多くの日本人に確かな勇気と大きな希望をあたえてくれた。

英語教育の面から振り返ると、新学習指導要領が提示され、小学校では「外国語活動の導入」、中学校では「週４時間」の決定、高校では「授業は英語で・・・」が明確に打ち出された。小・中・高のそれぞれが本格実施にむけて、互いに連携を図りながら、戦略的に準備を進めていかなければならない。

さて、都中英研は平成20年５月９日に総会を開き、今年度の役員組織の発表と行動目標をふまえて、それぞれの部の活動計画を確認した。とりわけ平成22年度に東京で開催される「第34回関ブロ東京大会」は、東京の英語の先生方が一丸となって取り組まなければならない、大きな大会であることを再確認した。しかし、東京大会は、何も奇をてらう必要はない。東京は、今までの関ブロ東京大会のように、自然体で臨めばよいと考えている。

なお、都中英研は他の英語の教育団体とも連携を図っている。全国の政令都市との連携はもとより、全英連との絆は強い。そして、今年度は全英連の歴史が始まって以来の画期的なことがあった。それは会長選挙である。歴代の都中英研会長と全英連会長が、会議に会議を重ねた結果であり、組織改善を含む会長選挙は歴史的改革である。これからも、他の教育団体との前向きな連携を図る必要がある。

最後に都中英研のこれからの課題を確認したい。都中英研は、役員を中心として各部の部員の献身的な努力で成果をあげ、多くの人から高い評価を得てきた。それは、いつもたゆまぬ地道な苦労の連続の結果である。これからはベテランの先生方に加えて、若く新しい研究仲間を増やしたい。そして共に学び合いながら、切磋琢磨する研究組織であることを忘れてはいけない。私たち教師自らが学ぶ姿勢を持つことが、生徒に勉強することの大切さを、言葉でなく行動で示すことにもなる。

新学習指導要領から見る今後の中学校における英語教育

文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官　菅　正隆

平成20年３月28日に学習指導要領が改訂された。これにより、中学校における外国語（英語）の週当たりの時間数が、現行週３コマから、週４コマに増加された。しかし、時間数の増加だけにとどまらない。それ以上に、中学校に影響を及ぼすと思われるのは、日本の教育史上初めての小学校外国語活動の導入であろう。そこで、今後の中学校の英語教育はどのように改善され、教員はどのように対処すべきか述べたいと思う。

１　新学習指導要領に見る現行学習指導要領からの変更点

まず、新学習指導要領の改訂のポイントを見ていきたい。

①　聞く・話す・読む・書くを総合的に行う学習活動の充実（現行は、聞く・話すに重点）

☆聞く、話す、読む、書くなどのコミュニケーション能力の基礎を養う旨明記。

◎４つの技能ごとに次の指導内容を追加。

〔聞くこと〕まとまりのある英語を聞いて概要や要点を適切に聞き取る

〔話すこと〕テーマを決めて簡単なスピーチをする

〔読むこと〕読んだ内容に対する感想を述べたり、賛否やその理由を示せるよう、書かれた内容や考え方をとらえる

〔書くこと〕文と文のつながりに注意して文書を書くこと

○語、連語、慣用表現の指導について、活用することを通して定着を図る旨明記。

○文法の指導について、言語活動と効果的に関連づけて指導する旨明記。

②　語彙・教材の充実

○「900語程度までの語」を「1200語程度の語」に改める。

○教材は、日常生活、物語などに加え、伝統文化や自然科学などに関するものの中から、生徒の興味・関心に即して適切な題材を取り上げる。

③　小学校における外国語活動の導入を踏まえた改善

☆聞く・話すについては、「慣れ親しむ」ことは、英語の目標から削除

○特に第一学年で言語活動を行う際には、小学校の外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度などの一定の素地が育成されることを踏まえるよう規定。

新学習指導要領では、授業時間数の増加、語彙数の増加が特筆すべき改訂のポイントと見えるが、実はそれ以上に、◎にある４つの技能ごとの指導内容の追加に、特に注目していただきたいと思う。実はこれは、数値的表現にはなってはいないが、文言による到達目標と見ることもできる。それは、新学習指導要領の技能別内容の最後に掲げられていることを考えれば、納得のいくことであろう。また、小学校に外国語活動が導入されることにより、特に中学校第１学年での指導の在り方も考え直す必要が出てくるであろう。この２点を大きな変化と見る方が、指導の改善を図る上でも大切なこととなってくるであろう。

2　新学習指導要領の実施にあたり、中学校現場が注意すべきこと

上にも記したように、新学習指導要領では、特に小学校との連携を考える必要が出てくる。新学習指導要領では、第１学年における言語活動は、「小学校における外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度などの一定の素地が育成されることを踏まえ、身近な言語の使用場面や言語の働きに配慮した言語活動を行わせること。その際、自分の気持ちや身の回りの出来事などの中から簡単な表現を用いてコミュニケーションを図れるような話題を取り上げること」とされている。また、指導計画の作成と内容の取扱いにおいては、「小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとする」とされている。これらから分かるように、中学校の英語教員は、中学校区の小学校において、外国語活動（英語活動）がどのように行われているかを把握するとともに、指導計画の作成においては、小中の円滑な連携を考えつつ行うことが求められる。そして、小学校の教員と中学校の教員が児童及び生徒についての情報交換や、指導内容の共有化、相互の授業見学などを行いながら、小中の段差をなくすような指導を目指すことが大切である。

小学校は平成21年度からの移行期間において、多くの小学校が外国語活動に取り組むと考えられる。そこで、中学校側が小学校に対して、様々な支援策を考えることもできる。英語に自信のない小学校の教員のために、校内研修などに参加して、先生方の手助けを行うことで、小中の教員間のコミュニケーションも図られ、その積み重ねが、児童や生徒の指導にも効果的に現れてくると期待できる。中学校の英語教員が英語を専門だからと言って、小学校の先生方に高圧的に英語を教えることなく、仲良く、児童及び生徒のために手を取り合っていただけたらと思う。

EIGOからＩ（愛）を取ると、ただのEGOになることを肝に銘じていただければと思っている。

中学校の英語教員は、英語を通して子どもたちの人間形成を行っているのであって、英語の知識のみを一方的に教え込んでいるのではない。今後とも、従来通り、温かい愛のこもった英語教育を実践し続けていただけたらと思う。

英語科における学習指導要領の改訂のポイント

東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課　指導主事　岩崎紀美子

（1）改訂の趣旨

今回の外国語科の改訂に当たっては、平成20年１月の中央教育審議会の答申を踏まえ、主に次の４つの基本方針に基づいて改善を図った。

○「聞くこと」や「読むこと」を通じて得た知識等について、「話すこと」や「書くこと」を通じて発信することが可能となるよう、４技能を総合的に育成する指導を充実する。

○指導に用いられる教材の題材や内容については、４技能を総合的に育成するための活動に資するものとなるよう改善を図る。

○「聞くこと」、「話すこと」、「読むこと」及び「書くこと」の４技能の総合的な指導を通して、これらの４技能を統合的に活用できるコミュニケーション能力を育成するとともに、文法指導を言語活動と一体的に行うよう改善を図る。

○中学校における音声面での指導については、小学校段階での外国語活動を通じて音声面を中心としたコミュニケーションに対する積極的な態度等の一定の素地が育成されることを踏まえ、指導内容の改善を図る。

このような方針のもとに、授業時数の増加を実施するとともに、指導する語数を増加させている。一方、文法等の指導内容は概ね従来のままとしており、新たな指導事項の追加はほとんど行っていない。

また、いわゆる「はどめ規定」については、記述を改め、各学校がそれぞれの創意工夫を生かした特色ある授業を実施できることが更に明確になるよう見直している。

（2）主な改訂内容

ア　目標改善の要点

・外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深める。

・外国語を通じて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図る。

・聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

イ　内容等の改善の要点

・「聞くこと」においては、「まとまりのある英語を聞いて、概要や要点を適切に聞き取ること」を追加した。

・「話すこと」においては、「与えられたテーマについて簡単なスピーチをすること」を追加した。

・「読むこと」においては、「話の内容や書き手の意見などに対して感想を述べたり賛否やその理由を示したりなどすることができるよう、書かれた内容や考え方などをとらえること」を追加した。

・「書くこと」においては、①語と語のつながりなどに注意して正しく文を書くこと。②身近な場面における出来事や体験したことなどについて、自分の考えや気持ちなどを書くこと。③自分の考えや気持ちなどが読み手に正しく伝わるように、文と文のつながりなどに注意して文章を書くこと。とした。

ウ　外国語科における「指導計画の作成と内容の取扱い」の改善の要点

・小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成すること。

（3）指導上の配慮事項等

各領域ともそれぞれ４つの指導事項で構成していたものを、今回は５つの指導事項に変更し、充実を図っている。

ア　言語材料の改善事項

指導する語の総数を1200語程度とした。この語数の増加に伴い、生徒が自ら興味をもって言語活動を行ったり、英語で発信することがより一層充実して行われるようになることが期待される。

イ　言語活動の取扱い

変更については、「理解の段階にとどめること」としていたいくつかの事項について、その制限をなくしたことである。これらの事項について表現の段階まで高める指導を行うことができることを示した。また、新たに加えた事項として、「発音と綴りを関連づけて指導すること」、文法については、「コミュニケーションを支えるものであることを踏まえ、言語活動と効果的に関連付けて指導すること」、また、「語順や修飾関係などにおける日本語との違いに留意して指導すること」、「英語の特質を理解させるために、関連のある文法事項はまとまりをもって整理するなど、効果的な指導ができるように工夫すること」、の４項目を示している。

ウ　指導計画作成上の配慮事項

この指導計画は、指導計画の作成に当たって、３学年間を通して外国語の目標を達成するため、各学校において学年ごとの目標を適切に定めることの必要性を述べたものである。

特に第１学年においては、小学校における外国語活動の内容や指導の事態等を十分に踏まえることが大切である

東京都教職員研修センターにおける

外国語（英語）に関する研修について

東京都教職員研修センター　統括指導主事　坂本　純一　宮野　聡
指導主事　君塚　佳昭　林　宣之

平成20年度は、外国語（英語）に関する選択課題研修（自己の課題に応じて選択できる研修）を下記のとおり実施し、多くの先生方が受講されました。

＜選択課題研修　英語Ⅰ＞

「英語科指導の基礎・基本」

○ ねらい…学習指導要領の理解や学習指導案の作成、授業研究等をとおして、授業づくりに必要な知識や技能を習得する。（全３回）

①「学習指導要領の内容と基礎的な授業展開の理解」

研修会場　東京都教職員研修センター

講　　師　武蔵野大学客員教授　　長　　勝彦

②「学習指導案の作成と指導事例等の理解」

研修会場　東京都教職員研修センター

講　　師　公立中学校教諭

都立高等学校教諭

③「授業を基にした授業展開・指導方法等の理解」

研修会場　都立両国高等学校附属中学校

講　　師　都立両国高等学校附属中学校教諭

＜選択課題研修　英語ⅡＡ＞

「実践的コミュニケーション能力を高める指導の充実」

○ ねらい…「児童・生徒の学力向上を図るための調査」等の結果を踏まえた指導の改善を図るために、実践的コミュニケーション能力を高める指導の理解と授業研究等をとおして、授業力の向上を図る。（全２回）

①「実践的コミュニケーション能力を高める指導の実際」

研修会場　東京都教職員研修センター

講　　師　公立中学校教諭

②「授業を基にした指導と評価の改善」

研修会場　杉並区立井荻中学校

講　　師　杉並区立井荻中学校教諭

＜選択課題研修　英語ⅡＢ＞

「表現力や理解力を高める指導の充実」

○ ねらい…発達段階に応じた聞くこと、話すこと、読むこと及び書くことの能力を高める指導の理解をとおして、授業力の向上を図る。（全２回）

①聞くこと・話すことの能力を高める言語活動の実際

研修会場　東京都教職員研修センター

講　　師　津田塾大学オープンスクール派遣講師　３名

②読むこと・書くことの能力を高める言語活動の実際

研修会場　東京都教職員研修センター

講　　師　津田塾大学オープンスクール派遣講師　３名

＜選択課題研修　英語Ⅲ＞

「英語指導に関する専門性の向上」

○ ねらい…英語科教育の今日的な課題やこれからの指導の在り方の理解をとおして、各地域における教科指導の指導者として必要な資質・能力を高める。

（全３回）

①「発達段階に応じた指導とこれからの英語教育の在り方」

研修会場　上智大学四谷キャンパス

講　　師　上智大学教授　　吉田　研作

②「指導の改善と教材開発」

研修会場　上智大学四谷キャンパス

講　　師　上智大学教授　　渡部　良典

③「授業を通した授業改善への取組」

研修会場　都立三田高等学校

講　　師　都立三田高等学校教諭

このほかに、以下の外国語（英語）に関する研修を実施しました。

＜東京都公立小学校外国語活動中核教員研修＞（夏期休業日３日間）

○ ねらい…小学校における外国語活動を円滑に進めるために、各小学校等の外国語活動を主に担当する教員を対象として、外国語活動の在り方や学級担任の役割等について必要な知識等の習得を図る。受講者は、平成20年度から22年度の間に、計30時間程度（研究授業等を含む）の校内研修を運営し、現職の教員全員に研修の内容を伝達する。

＜進学対策のための教科研修＞

○ ねらい…進学対策における指導方法等の理解を深め、全受講者による模擬授業や受講者代表による授業研究をとおして授業改善を図ることで、都立高等学校の進学指導の向上に資する。

＜中高一貫教育校教員養成研修＞

○ ねらい…中高一貫教育の趣旨や教養教育、６年間を見通した学習指導等について理解を深めるとともに、中高一貫教育校における教育課程の編成と教科指導の実践力を身に付ける。

＜東京教師道場＞

○ ねらい…東京都公立学校の児童・生徒の学力向上を図るため、教員の「授業力」を一層高めるとともに、他の教員を指導する資質・能力を育成する。

小学校外国語活動と中学校外国語科との連携（9）

－小中一貫教育を目指して－

元中英研会長　太田　美智彦

平成20年３月に、小・中学校の新しい学習指導要領が告示された。平成21年からの移行措置を経て、小学校では23年から、中学校では24年から完全実施される。今回の改訂で、小学校では新しく外国語（英語）活動が導入され、高学年の５年と６年で週１時間必修となった。中学校では小学校の外国語活動の導入を受け、４領域をバランスよく指導すること、週あたりの時間数が３時間から４時間になり、指導する語の総数が900語程度から1200語程度となったなど改訂された。そして、指導計画の作成と内容の取扱いで、小学校における外国語活動との関連に留意して、指導計画を適切に作成するものとするが、新たに設けられた。

Ⅰ　小学校における外国語（英語）活動のこれからの取組み

これまでの都内の小学校英語活動の取組みをみると、各自治体や学校間にかなりの温度差がみられた。しかし、これからは英語活動に消極的であった学校も21年度は５、６学年全学級に例えば年間10時間ALTを派遣されるなど自治体の支援を受けて、この移行措置期間から積極的に取組み、段階的に授業時数を増やしていく予定の学校も見られるようになった。また、この期間中にALT中心の授業から学級担任主導の授業へと指導内容・方法の改善に取り組む学校も増加の傾向にある。

最近は、構造改革特区の認定や文科省の研究開発学校の指定を受けて、小中一貫教育に取り組む自治体や、小学校と中学校の連携を強化する学校が増えてきた。これら研究発表校の成果をみると、明らかに中学入学後の生徒に良い変化が見える。これは小学校でのこれまでの並々ならぬ努力と中学校側の献身的な協力による連携の賜物であって、喜ばしいことである。

Ⅱ　望ましい小中連携のあり方

１．小中一貫教育を目指した取組み

子どもの発達段階に即したカリキュラム開発などを行うためには、まずは小中のねらいを正しく理解した上で連携を図ることが重要である。これまで取り組んできた自治体や学校によると、現行の６・３制と子どもの発達段階との食い違いから、学校体系を見直して取り組んでいる自治体もある。４－３－２制、５－４制、４－５制、２－３－４制、９年間区切りなしなど、多様である。しかし、現行の６－３制で「中１ギャップ」など小中接続の課題に十分応えて成果をあげているところも見られる。

また、校地、校舎も一体型、隣接型、既存のものの活用など様々であるが、身近なところで隣接型などは取組みやすい。小中一貫教育を目指す上で、地域との連携を深め、地域の人材を活用して効果をあげている地域もある。

2．実効性のある小中の円滑な連携

（1）小中のカリキュラムの接続を図る

小中のカリキュラムの接続を図るために、両カリキュラムの接点を小中新学習指導要領にみることができる。小学校では、第２の内容の取り扱いの、［コミュニケーション場面の例］［コミュニケーション働きの例］から、中学校では、（2）言語活動の取り扱いの［言語の使用場面の例］［言語の働きの例］から共通事項、例えばあいさつ、自己紹介、買い物などを軸に、共通のテーマを設定する。語彙や表現など発達段階に応じた具体的な内容は、文科省の解説書を参考にして組むこともできる。

具体的にこの小中のカリキュラム作成や改善にあたっては、例えば中学校区内の隣接した一つまた二つの小学校と中学校で担当者の連絡協議会をもって、検討を重ねていく。小中で同じ題材で授業を見せ合い、小学校と中学校との指導内容の範囲区分を明確にしていくことが大切である。互いに授業を検証し合うことによって、児童生徒の実態を把握でき、小学校外国語活動で培ってきた国際コミュニケーション活動への積極的な態度など、コミュニケーション能力の素地を細かく把握できて、中学校英語教育にスムーズに移行させていくことができると思われる。

また、中学入学生徒の期待にこたえるためにも、接続期（これまでの入門期）の指導計画を見直す必要がある。参考までに、文科省作成の教材「英語ノート」（試作版）では、計285の単語と中学1年レベルの50の表現を扱っている。各学校独自のカリキュラムにおいても、あいさつや簡単な自己紹介、身近な教室英語などを取り上げている。接続期の計画は、小中連絡協議会等で検討するとよい。

（2）小中の教師間や児童生徒同士の交流を深める

小中教師間の交流についてはすでに述べた通りであるが、小学校英語活動高学年の授業に、隣接中学校の英語教師がＴ２としてTTに協力することは非常に意義のあることである。ALTの派遣には、経済的物理的に制約があるので、中学校教師が代わって音声や表現などの導入で専門性を発揮できる。教師自身が直接児童に接することで児童の取り組みの実態を把握できるとともに、TTの中で小学校教師のきめ細かな指導技術を学ぶことができ、中学校教師の指導技術の向上に役立てることもできる。児童にとっては、近く進学するであろう中学校の教師に親しみを覚え、児童が感ずるギャップを少しでも減らすことができる。中学校教師が参画することで小学校教師も実践の場における英語使用の研修の機会とすることができる。

隣接校同士の児童と生徒との交流もメリットは大きい。簡単な会話やゲームを通して英語活動に親しむとともに、人間的な触れ合いを通じて「あのような中学生になりたいな」という気持ちを抱かせる。中学生にとっても英語学習を振り返るチャンスともなる。課題は、時間の確保とともに、小中の日頃の教師間の人間関係などが大切である。

第61回　東京都英語学芸大会　Playの部　第１位

“Run, Meros, Run” の取り組みを通して生徒達が学んだこと

足立区立第十二中学校　教諭　神原　幸子

我が十二中での英語劇の取り組みは三年目である。四年前までは「英検受検部」という名で週１～２回英語検定受検や定期テストに向けて、英語学習に取り組む十人以内の小部活動であった。三年前に、前任校でも英語劇に熱心に取り組んだ石川容子先生、さらに学生時代に英語劇部に所属した新任の神戸千恵先生を迎え、三人で「英語部」として英語劇に取り組んでいこうということになった。

一年目「シンデレラ」は校内の文化祭のみの上演。二年目は「笠地蔵」。前年の英語劇を見て興味を持ってくれた二年生が助っ人として数名参加し、又、神戸先生がコミカル風に演出し、初めて区大会に参加。「何とか三位までに入賞したいね。」と思っていたが、以外にも二位という好成績をいただき、皆大喜びであった。

そして今年は早くから「走れ、メロス」をと決めていたものの相変わらずの小部活動のため、役者がなかなか決まらず、部員以外に去年の参加者やその他興味のありそうな生徒に声をかけたが、なかなか役が決まらない中、夏休みから台本読みをスタート。日本語で読んで内容を理解し、又どの役でもできるよう全員が全てのセリフを読めるように何度も練習をした。最終的に配役を決めたのは、８月末。しかし９月は期末テストや宿泊行事もあり、全員そろっての練習はなかなか進まず、個人練習を徹底した。そんな中でも少しずつ演技指導が進んでくると、生徒達は教員が付けなくても発声練習や筋トレ、立ち稽古を自主的に行えるようになり、又、台本もよく読み、全員そろわず他の役をやらせても、セリフを完璧に憶えている生徒も何人かいて教員の方も驚くほどの意欲と努力であった。教員の方も三人いたことで、演出、音響・照明、衣装と役割分担ができ、又、なるべく多くの目で演技をチェックし、一人一人の動きを指導することができた。そして区大会において、一人一人が表情豊かで全員がよく演じていたとの講評をいただいた。

中間テスト明け、都大会二週間前に練習を再開。この時期の生徒の成長は驚くばかりであった。役を自分の物とし、自分の役に自信を持ち、没頭し、お互いに刺激しあい日々上達していった。そして前日、結果はどうあれ、今まで頑張ってきたことを無駄にせず、自分のできる最高の演技をしようと話をして都大会に臨んだ。

このような大きな賞をいただくことができたのは、生徒一人一人の努力に他ならない。しかし練習を重ねる中で一人一人が重要であるという自覚が芽生え、全員が協力しなければよいものは生まれないという意識を持てたことが、生徒達にとって大きな財産になったことであると思う。

第60回　東京都英語学芸大会　Speechの部　第１位

大会出場にあたって

世田谷区立駒沢中学校　教諭　鈴木　貴子

世田谷区スピーチコンテストの予選が例年１０月１日に行われる。まずはそれに向けてスピーチコンテスト参加者を募集した。その時に希望してきた１人が今回優勝した生徒である。ただし、その時点ではまだ何をスピーチするかは決まっていなかった。たくさんスピーチしたいことがある、と言う彼女はなかなか自分の考えをまとめられずにいた。そこで考えを書き出し、その中から今回は中学生に身近でわかりやすく、取り組みやすい問題を取り上げて原稿を作っていくことにした。そして出来上がったのが今回のスピーチ原稿「LIFE」であった。

スピーチ内容は「中学生の中で『死ね、うざい、きもい』という、人を傷つける言葉がよく使われている。しかし彼女の経験や日常耳に入るニュース、病気や飢えで苦しんでいる人々がたくさんいる世界情勢と併せて考えて、私たちはもっと命について深く重く受け止める必要がある。だからそのような言葉を使うことをやめよう。」と身近なところから自分の考えをまとめ、呼びかけていくスピーチであった。

ちょうど教科書でStevie Wonderの活動やWe Are the Worldの歌を学んでいたところでもあり、みんなで世界平和について考えていこう、という学年の雰囲気があった。本校の生徒はこのような問題を真剣に学び、考えていこうとする雰囲気があり、授業中の学ぶ姿勢も真剣であった。誰もが関心をもっているテーマであるので、スピーチ原稿は難しい言葉は使わず、教科書で勉強した単語や表現をキーワードとした。

原稿が出来上がってからは、彼女の表現力の豊かさやリズム感のよさにこちらが驚かされた。彼女のもっている天性と積極性そして努力が世田谷区のスピーチ大会での優勝、そして今回の受賞に大きくつながったと考えている。また、彼女の表現力を大きく高めてくれたのはＡＬＴの熱心な指導の成果でもあった。このことには受賞者と共に大変感謝をしている。

今回の受賞を機にさらに彼女の向学心は高まり、授業中も積極的に英語でコミュニケーションをとり、全体の雰囲気を高め、良い影響をまわりに与えている。また、全校集会で今回のスピーチを行い、１・2年生にも良い刺激を与えた。

今回、都中学校英語学芸大会においてスピーチさせていただいたことは、大変光栄なことであった。関係者の皆様に御礼申しあげます。ありがとうございました。

（3）実践研究

事業部　授業力アップ研修会　研究授業

練馬区立八坂中学校　教諭　伊地知可奈

1．単元名

New Horizon 1 English Course（東京書籍）

Unit 8　はじめてのカナダ旅行

2．単元の目標

（1）ものがどこにあるかたずねたり、それに答えたりすることができる。

（2）ものの持ち主についてたずねたり、それに答えたりすることができる。

（3）人についてたずねたりそれに答えたりすることができる。

3．評価規準

観点	ア　コミュニケーションへの関心・意欲・態度	イ　表現の能力	ウ　理解の能力	エ　言語・文化についての知識・理解
聞くこと	**言語活動への取り組み** ①理解できないところがあっても、推測するなどして聞き続ける。（観察）		**聞き取り** ①正しく内容を聞き取ることができる。（テスト）	
話すこと	**言語活動への取り組み** ②言語活動において、自分の気持ちを相手に分かりやすく伝えようとする。（発表）	**発話** ①聞かれたことに対して、適切に応答することができる。（観察）		**言語についての知識** ①会話表現の発音やリズム・イントネーションを理解し、正しく発音することができる。（観察）
読むこと		**音読** ②正しい強勢、イントネーション、区切りなどを用いて音読できる。（発表）	**読み取り** ②書かれた内容について正しく読み取ることができる。（テスト）	**言語についての知識** 場面や状況による強勢やイントネーションの違いを理解し、口頭で繰り返すことができる。（観察）
書くこと		**筆記** ③where、whoseや人称代名詞の目的格を使った表現を用いて、文章が書くことができる。（Writing シート、テスト）		**言語についての知識** ②where、whoseや人称代名詞の目的格を使った表現についての知識がある。（テスト）

4．指導計画（全７時間）

第１時　Where ...? 導入

第２時　Where ...? 復習、Unit 8（pp.66, 67）本文内容理解

第３時　Unit 8（pp.66, 67）本文復習、Whose ...? 導入

第４時　Whose ...? 復習、Unit 8（p.68）本文内容理解（本時）

第５時　Unit 8（p.68）本文復習、人称代名詞［目的格］導入

第６時　人称代名詞［目的格］復習、Unit 8（p.69）本文内容理解

第７時　Unit 8（p.69）本文復習、Unit 8 まとめ、人称代名詞まとめ

5．本時の目標

（１）教科書の内容を理解し、台詞を感情豊かに伝えるように音読する。

（２）ものの持ち主についてたずねたり、それに答えたり、書いたりする。

6．本時の指導展開（４／７時）

指導項目	教師の指導	生徒の活動	留意点	教材教具	評価
挨拶 （２分）	英語で挨拶をする。 天気、曜日などを確認する。	英語で挨拶した後、教師の質問に答える。	明るい雰囲気を作り、授業へ気持ちを切りかえさせる。		
BINGO （５分）	単語を読み上げる。 順位を与える。	教師の読み上げた単語をチェックし、BINGOになったら挙手をする。	遅れがちな生徒を支援する。	Let's Enjoy BINGO 1 （浜島書店）	
歌 （３分）	*Eight Days A Week* CDと一緒に歌う。	曲に合わせて歌う。	曲を楽しむ雰囲気を作る。	ソングシート CDプレイヤー	
前時の復習 （15分）	Whose ...? の使い方を、PCを用いて思い出させる。 全体で教師のあとについてWhose...?の文を発音させる。 一人一人にピクチャーカードを見せ、誰のものかを言わせる。 カードを使ってペアで“Whose ...?”“It's ~.”の会話を行わせる。 カードの内容の文をまとめで書かせる。	PCを見て前時の内容を思い出し、教師の質問に答える。 教師の後に続いて発音する。 絵についての質問に答える。 ペアになり、お互いにカードの内容についてたずねたり、答えたりする。	Whose ...?の使い方を再度しっかり確認する。 それぞれの発音、リズム・イントネーションが正しいか確認する。 正しく発話をしているか確認する。	PC ピクチャーカード 練習カード Writing シート	イ③
教科書本文導入 （15分）	Oral Introduction を、PCを用いて行う。	Oral Introduction を意味を推測しながら集中して聞く。	生徒の反応をよく観察する。	PC	
Listening	教科書本文を聞かせ、内容を確認させる質問を与えて答えさせる。	教師の質問に答える。	リスニングポイント ①Whose bag is this? ②Whose camera is that?	CD Bongo・Bongo	

本文内容確認	教科書を開かせ、本文の内容の確認を行う。	教師の質問に答えながら内容について理解する。			
新出単語	新しい単語を全体で発音する。 単語の意味を確認する。 単語を見て発音させ、日本語の意味をクラス全体で言わせる。	教師の後について新しい単語を発音する。フラッシュカードを見て単語の意味を確認する。教師の提示するフラッシュカードを見て、発音し、日本語の意味を言う。	生徒全員が正しく発音ができているかよく音を聞く。	フラッシュカード	
Choral Reading	本文を読む。	教師に続いて本文を読む。			
Buzz Reading	各自のペースで本文を音読練習させる。	その場に立ち、各自で音読練習を行う。	読み進むことができない生徒を支援する。	キッチンタイマー	
Pair Reading	Mike役とJudy役を決め、２人で音読練習させる。途中で役を交代させる。	パートナーと役を決め２人で音読する。途中で役を交代し再び音読練習を行う。	感情を入れてせりふを音読するよう伝える。	キッチンタイマー	
Paced Reading	CDを聞かせ、本文を見ながら読ませる。	CDの音声を聞いて本文を読む。	ナチュラルスピードに慣れさせる。	CD	
Shadowing	音声と一緒に発音させる。	CDの音声を聞きながら、本文を再生していく。	音を再生させるために集中させる。	CD	
まとめ （7分）	Whose～?を使った会話を作らせ発表させる。	ペアでWhose～?を使った会話を即興で作り、発表する。	感情を込めて発表させる。		イ①
宿題配布 Greeting （3分）	Writingシートを回収。 宿題を配布する。 英語で挨拶をする。	英語で挨拶をする。	生徒の授業に対する態度などで良い点・改善点等を述べる。	宿題	

7．今後の課題

（1）whoseの導入と復習における指導において

導入の直後には口頭による導入→簡単な説明→口頭によるドリル活動（パターンプラクティスのようなもの）→パターンの少ない活動（復習の時のカップを使ったもの）→基本文を書いてみる活動が考えられる。復習時では複数形などいろいろな付加要素を基本文に加えて説明する必要もある。

（2）音読の手順

導入直後の音読の目的は「文字と音を一致させること」である。そのために、コーラル・リーディングを丁寧に行い、時々生徒個人にあてて、確認したりする必要がある。ここでの音読の目的を「暗唱」や「表現音読」にするのであれば、ペア・リーディングでなるべく教科書を見ないで言うという活動を入れてもよいだろう。そのためにはコーラル・リーディングを丁寧にやり、十分な練習を積んだあと、リード・アンド・ルックアップなどでスピーキングへの橋渡しを行い、暗唱に近い

（または暗唱の）活動に持ってくことが望ましい。ただし導入直後の音読でここまで持っていくためにはかなりの時間を音読に割く必要がある。

（3）生徒に活動させることについて

キッチンタイマーを使って、細かく授業を組み立てたが、教師の考えた計画で進めることが多かった。生徒に考えさせたり、静かに流れる場面がもっとあったりしてもよいのではと考える。本文の内容理解と、文法や語法などの説明を別にして、最初に内容に関すること、次に文法などの確認をするように心がけることが大切である。生徒に「なぜ～？」などの質問をしながら、内容理解を深めていくことが今後必要である。

To overcome prepared speech
—Task-Based Language Teaching (TBLT) —

Adachi the sixth Junior High School **Masanori Konno**

Three functions of Output in second language learning
—noticing, hypothesis formation and testing, and metalanguage—

Long time ago, when I began to teach students at a new school, one of the students asked me whether the sentence was grammatically correct in order for her to **notice** the correct form of the feature. I was surprised at her question because the sentence was easy, besides she was really good at English. Schmidt (1990) asserts that once consciousness has been raised, a number of learners are able to notice the structures in subsequent meaning-focused activities.

Learners may use their output as a way of trying out new language forms and structures **(hypothesis)** so that they can stretch their interlanguage (i.e the learners' current second language proficiency). To have students produce language may serve the language learning through **hypothesis formation** and **testing** (Swain, 1985). According to Swain's Output Hypothesis (1985), second language acquisition is promoted by learners being pushed to produce language that is accurate and precise. Swain (1985) asserts that for grammatical accuracy to develop, it is necessary for learners to both become aware of form-meaning relationships and receive feedback on their output using the forms to create meaning. In addition, if learners can discuss the language they are producing **(metalanguage)**, such talk will improve accuracy and enable them to gain some more control over their learning, thereby accelerating their language acquisition (Swain, 1995).

Focus on form and focus on forms

In order for learners to achieve high accuracy in their use seems to be challenging. Consequently some form-focused instruction is needed for learners to achieve accuracy as well as fluency for their acquisition of the target language (Rutherford and Sharwood Smith: 1988). A forms-focused lesson often takes the shape of reading a short text, and then explaining one or more grammar points, doing some structural exercises and some communicative exercises. This type of teaching method takes PPP (present-practice-produce) approach. This approach is called 'focus on forms'. However if form-focused instruction on particular items of the target language involves only isolated, drill-like practice in non-communicative contexts, the learner may not be able to transfer the explicit grammar knowledge to authentic contexts which involve meaningful interaction. Therefore it has been criticised although this approach seems needed. One criticism is that correctly manipulating grammar does not automatically lead to effective communication. Therefore Long (1988) distinguishes between a 'focus on forms' and 'focus on form'. The former refers to approaches mentioned above based on a focused grammar structure approach. The latter, on the other hand, refers to drawing learners' attention to linguistic forms and the meaning they realise in a context of activities in which the learners' primary focus of attention is meaning.

To overcome prepared speech—Task Based Language Teaching (TBLT) —

I have been aiming to incorporate second language acquisition theory and to introduce communicative activities which can encourage students to negotiate their own meaning in English more often, rather than only regurgitate English from simple practice and drills. Focus-on-form activities combine well with a task-based syllabus (Ellis: 1994), which needs to focus learners' engagement on carrying out communicative activities. They can be effectively integrated into task work in the classroom (Long: 1991). TBLT has been proposed for language instruction. A core component of fluency-based pedagogy in my class is task-based learning. Grammar task performance can instruct learners, increase their awareness of the target forms, and provide reinforcement for noticing how instructed features are used in meaning-focused contexts (Fotos, 2002). Tasks can provide the learner with target language input which is rich in communicative usages, and task performance provides opportunities for the type of learner interaction suggested to promote language acquisition (Fotos, 2002). Based on the principle of TBLT (Willis, 1996), the aim of the task is to create a real purpose for language use, providing the learners with the task to have negotiation of meaning with the teacher in English.

In my class, the first graders were required to talk about "his/her friend and daily life". Their goal is to speak more than 60 words, with more than three questions to ALT within a minute. After their talk, they were encouraged to reflect on their performance in order to identify aspects of their utterances which required modification. Post-activity feedback correcting errors and pointing out how the target form has been utilized in context has been recommended for enhancing accuracy (Ellis, 1994). Such feedback enables learners to "notice the gap" between the target language they want to produce and the limitations of their current interlanguage. Error correction and feedback should also be regarded as an important tool in the noticing process. The result after the task showed that approximately 71 percent of the students achieved the goal.

—References—

Ellis, R., (1994) The Study of Second Language Acquisition. Oxford: Oxford University Press.

Fotos, S., (2002). "Structure-Based Interactive Tasks for the EFL Learner" in Hinkel, E., and Fotos, S., (2002). New Perspectives on Grammar Teaching in Second Language Classrooms. Laurence Erlbaum.

Long, M., (1988). Instructed interlanguage development. In L. Beebe (Eds.) Issues in second language acquisition: Multiple perspectives (pp. 115-141). New York: Newbury House.

Rutherford, W. and M. Sharwood Smith. (1988) Grammar and second language teaching. New York: Newbury House.

Schmidt, R. (1990) The role of consciousness in second language learning. Applied linguistics, 11, 129-158.

Swain, M. (1985). Communicative competence: Some roles of comprehensive input and comprehensive output in its development. In S. Gass and C. Madden (Eds) Input in second language acquisition. Rowley.

Swain, M. (1995). "Three functions of output in second language learning" in Cook, G and Seidlhofer, B., (Eds) Principle and Practice in Applied Linguistics. Oxford: Oxford University Press.

Willis, J., (1996). A Framework for Task-Based Learning, Pearson Education.

小学校外国語活動（英語）の実践
－評価について－
－テレビ会議等による海外とのコミュニケーション活動を通して－

北区立桐ヶ丘郷小学校　校長　永嶋　昌博

1．北区におけるこれまでの取り組み状況

北区では、平成１６年度から「英語が使える北区人事業」として小学校全学年で英語活動を実施してきている。本事業は、小・中学生の英語にふれる機会を積極的に増やして、児童・生徒のコミュニケーション能力を高め、英語による交流ができる子どもを育成することをねらいとしている。

そのために、北区では小学校外国語活動（英語）において、適切な評価規準を設け、教師の授業改善を図ると共に子どもたちの振り返りを行い、意欲を高める指導を行っている。

2．課題

北区では、外国語活動（英語）において、ALTとのTTによる授業形態を取っている。しかし、小学校には英語専科の先生がいないため、英語を苦手とする教師は、外国語活動（英語）のリーダーシップを取ることが難しい状況にあり、ALTに授業を一任してしまう傾向がみられる。学級担任として一番子どもたちの状況を理解している担任教師が、子どもたちの実態に対応して外国語活動（英語）を効果的に行うことが求められている。また、教師による授業の適切な評価と子どもたちの振り返り評価（自己評価）の実施など、授業改善と子どもの意欲の向上を図ることが課題となっている。

3．実践授業

北区で設定した評価規準を元に評価についての検証授業（１学年）を以下に報告する。

（1）指導案「クリスマスを祝おう」第１学年

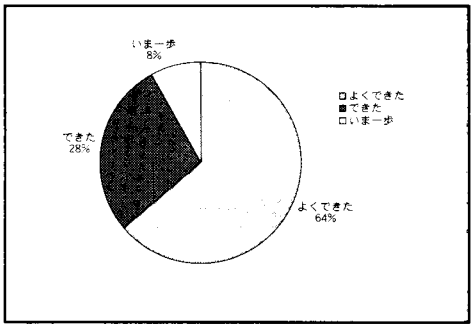
学習活動	○HRTの主なかかわり●評価基準	○ALTの主なかかわり
１．はじめのあいさつをする。 A：Hello, everyone. B：Hello, Chris. A：How are you? B：I'm fine, thank you. And you? A：I'm fine, too. Thank you. ２．歌を歌う。　(Hello song)	○児童と一緒に気持ちよくあいさつをし、雰囲気を作る。	○HRTと共に、児童に対し、元気にあいさつをする。

3．サンタが登場 ・サンタが持ってきたプレゼントをクリスマスツリーに飾る。 ・クリスマスに関係する言葉の練習をする。 candy cane, snowman, bell, star, present, stocking	○一緒に発音したり、上手にできたら褒めたりしながら、児童を励ます。 ○意味がわからない単語がある場合は、補足説明をする。	○実物をみながら、大きな声で、ゆっくりはっきり発音する。
4．ALTによるクリスマスクイズ ・カナダのクリスマスについてのミニトークを聞いたり、クイズに答える。 ・アメリカの小学校から届いたビデオレターを見る。	○クリスマスについて和訳する。 **●担任による児童の観察** **A：ミニトークに楽しんで参加している。** **B：上記以外** **（Bの児童には、話を聞くよう声をかける。）**	○クリスマスの簡単な説明をする。 ○質問に答える。
5．Merry Christmas!ペア探しゲームをする。 手順 ①“Merry Christmas”の説明 ②1人1枚ずつ絵を渡す。 ③友だちに“Merry Christmas”とあいさつし握手をしてから、1，2，3と言ってカードを見せ合う。 ④同じ絵を持っていたら、2人でALTまたはHRTのところに行き、“Merry Christmas”とあいさつし握手をしてからカードを渡す。 ⑤ALT, guest teacher：What's this? What do you have?と質問し、児童が答える。 ⑥カードを渡した児童は座る。	○表現の仕方を、ALTとデモンストレーションしながら示す。 ○活動内容がわかるように、ALTとモデルを示す。 ○手順について確認する。 ○ゲームの説明がわかりにくい点は日本語で補足する。 **●担任による児童の観察** **A：クリスマスゲームを通して、楽しんで活動している。** **B：上記以外** **（Bの児童には、ゲームに参加できるように声をかける。）**	○ペア探しゲームの説明をする。
6．We Wish You a Merry Christmas!の歌を歌う。 ・円になって座る ・1人の児童に絵カードを渡し、歌のリズムに合わせながら、隣に回す。 ・音楽が終わった時に絵を持っていた児童は、ツリーのtopへ貼る。 ・出来上がったら、皆で“Merry Christmas!”と言う。	○一緒に歌う。 ○上手にできたら褒めて励ます。	○HRTとモデルを示す。 ○絵カードを用意する。
7．サンタからのプレゼントをもらう。		

8．おわりのあいさつをする。 Good bye, everyone.	○児童と一緒にあいさつをし、 次時への期待を高める。	Good bye, everyone.

（2）子どもの「振り返りカード」の結果（自己評価）

●クリスマスクイズのとき、ALTの目を見て話をきくことができましたか？

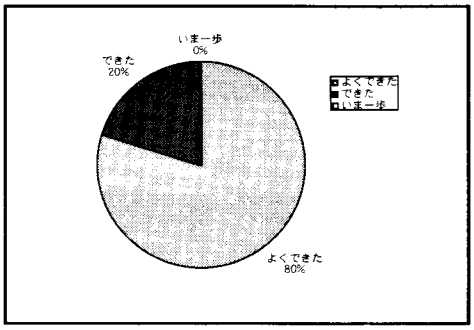


＜考察１＞

大部分の子どもたちは「よくできた」あるいは「できた」と自己評価している。

しかし、一部に目を見て英語の話を聞くことが難しいと感じる子どもがいる。

●自分からペアをみつけ、あいさつができましたか？



＜考察２＞

ペア捜しのパズルゲームでは、大部分の子どもが「よくできた」あるいは「できた」と、活動には積極的に参加できたと答えている。この活動が本時のコミュニケーション活動を意識した重要な目当ての部分である。

（3）教師による評価について

子どもの自己評価だけでなく、教師による子どもの評価（A・Bで評価）も合わせて行う。北区で作成した評価規準「関心・意欲・態度」「理解力・表現力」「日本や外国の生活や文化についての興味・関心・理解」を元に、今後の授業改善と子どもの頑張りなどの意欲向上につなげていきたい。

4．ビデオレターやテレビ会議によるコミュニケーション活動

（1）ビデオレター

今回の授業に合わせて、アメリカ・ペンシルベニア州にあるShepherdstown（シェファーズタウン）小学校の子どもたちがクリスマスのビデオレターをネット配信で送ってくれた。同年齢の子どもたちの話す英語のメッセージにふれ、日本の子どもたちは新鮮な感動を覚えたようである。

（2）テレビ会議によるコミュニケーション活動

Sheperdstown小学校の子どもたちとはボランティア参加であるが、本校の６年生がすでにテレビ会議で交流し、お互いに顔を見ながら話をしている。

時差の関係で日本側は早朝になってしまうが子どもたちは外国語活動を楽しんでいる。本校では、これまで世界１０数カ国とのテレビ会議を行ってきた。中には、アメリカの有名俳優ウィル・スミスの設立した学校とテレビ会議の折り、ウィル・スミスの娘さんのウィローさん（画面１）と話をする機会があり、子どもたちは大いに喜び興奮した。

画面１

画面２

ちょうどハロウィンのシーズンだったので、どくろのお面をかぶってテレビ会議をしてコミュニケーション活動を楽しんだ。（画面２の右下の四角枠部分が日本側）また、偶然この日がウィローさんの誕生日というので、日本の子どもたちは、「ハッピバースデイトゥーユー」を歌ってあげたら「Thank you!」という答えが返ってきた。

このように、テレビ会議を外国語活動に導入することで、リアルなコミュニケーション活動が可能となる。お互いの教室から顔を見ながら話ができるという機会は、普段の教室内での外国語活動では味わうことができないものである。外国語活動のめざすものは、文化の異なる人々と外国語を使って積極的にコミュニケーションをしようとする意欲と能力を高めることにあると考える。現地では「今晩は！」だが、こちらでは「おはよう！」と時差を感じながらコミュニケーションをすることもテレビ会議の醍醐味である。

東京都教職員研修センター

「東京教師道場」における２年間の研修の取り組み

19道場　中学校外国語（英語）第１班・第２班

助言者　江東区立深川第八中学校　　石井　　亨
東村山市立東村山第二中学校　谷口　弘美

東京教師道場は東京都教育委員会が長年行ってきた研究員や開発委員とは異なる２年間という長丁場の中で、自分の授業を鍛える研修プログラムである。発表のためではなく、紀要のためでもない。とにかく自分の授業力向上のため、生徒のためにより良い授業をするため、数多くの授業研究を行い、部員相互でたたき合う。そんな道場に集まった第２期生12名。教職歴４年から10年程度の意欲のある若い部員の授業は全てが、部員一人ひとりの宝物になったに違いない。

授業力を向上させるとは、具体的に何を目指せばいいのだろう。私たちが求めたものは派手な活動でもなく、発表で成果を誇示するものでもない。育てたい生徒像と英語力の到達目標を設定し、目標達成のための指導展開や教材を工夫すること。それぞれのねらいとつながりを心がけること。さらに、生徒の反応、理解度を把握しながら進める指導技術を身につけること。最終的には助言者の視点を持った授業者リーダーとしての資質を磨くこと。これが19道場の目標となった。

研究授業の前には送られてくる指導案に教授、助言者、そして部員相互で赤を入れる。毎月１回の研究授業。これまでにこんなに数多くの指導案を検討したことがあっただろうか。指導案の段階から様々な疑問が投げかけられると、ひとつひとつの活動の意味を考えることとなる。工夫しているだけではなく、それぞれの活動がひとつの授業の中でどのような役割を担い、生徒の英語力の到達目標につながる活動であるのかを、常に意識することとなる。中には8回も書き直した部員もいた。

そして授業。授業者だけでなく、協議会を通して授業を見る目を養っていく部員。その授業が行われるに至った過程までも見直すこともあった。部員の授業をたたきながら、私自身何と多くのことを学ばせていただいたことか。いや、いつも部員に対して高いものを求めながら、では果たして自分はできているのかと常に問いかけてきた。部員達も助言活動を行いながら、自分自身の授業を向上させていったに違いない。部員達の今後の活躍が本当に楽しみである。

この道場の素晴らしさは、現場を知り尽くしたお二人の教授方が常に親身に面倒を見てくださっているところだ。そして長年の経験と広く深い視点で、私たちをより高い授業者へと導いてくださる。２年間は決して楽なものではない、出張のために時間割変更をすると、その週は空き時間がなくなることもある。しかし、その忙しさ以上のギフトを手に入れることができたと自負できる。次に続く若い先生方の活躍を願ってやまない。

（文責　東村山市立東村山第二中学校　谷口　弘美）

東京都教職員研修センター

「東京教師道場」における２年間の研修の取り組み

19道場　中学校外国語（英語）第１班

部員　葛飾区立一之台中学校　教諭　望月　光代

この２年間、教師道場で学んだことは私の教師生活の中で本当に大きな宝となった。

道場で学ぶ以前の私は、研究授業と言えば校内のみで、それも数年に１回の割合でしか行ったことがなかった。研修会に出て、学んだことを実践してみようと思ったが、実際に目の前にいる生徒にはなかなか合わなくてやめてしまうことの繰り返しだった。今思えば、３年間の自分自身のビジョンがなく、目の前にいる生徒にどんな力をつけさせたいかという具体的目標を設定していなかったためであると思う。

道場で最初に拝見した助言者の先生の授業。まさに目から鱗が落ちる授業だった。第一に、授業規律が確立された中での、All in English。次に、教師の指示が端的かつ明確。さらに生徒が主体的に英語を使い、＋αの文や語を使おうとしていた。そのためには、日頃の教師の細かな手だてが大きく左右することがわかった。ここから、自分自身との戦いが始まった。協議会の度に、教授、助言者の先生方から数々のアドバイスや資料、参考文献が紹介された。メールでの部員同士の授業案の検討。最初は助言など考えもできないくらいだった。もちろん、私自身の授業案を教授、助言者の各先生方、及び部員の先生方に見て頂き、校正を繰り返した。そして、研究授業を見て頂き、協議する中で、自身の新たな改善点を見つけ、実際に改善へと繋げていった。特に私の大きな課題は、「①ねらいを明確にすること②活動から活動へのつながりをきちんともつこと③３年間のゴールを見据えた上での現在の指導を考えること④教えすぎず、生徒から引き出すこと⑤一人ひとりの形成的評価、理解度の確認をして生徒の状況を捉えながら授業を進めること」これら以外にもたくさんある。常に客観的に自身の授業を振り返ることが出来るようになったことが一番の研修になっている。

私自身が教師道場を通して大きく変わったことは、生徒の視点に立ち、生徒に力をつける授業をどのように展開すれば良いのかを具体的に考えられるようになった事である。何よりも、生徒に力を付けさせられるのは自分しかいないのだという、使命感や責任感が増したことである。今の私の喜びは、生徒が前の授業より一つでも多く英語が使えるようになること、英語を使って話すことが楽しいと思ってくれることである。

教師道場で出会った教授の先生方、助言者の先生方、そして仲間の部員の先生方、さらに道場へと背中を押してくださった本校の先生方、本当にありがとうございました。ここで学んだことを、生徒に還元すべく、さらに力をつけていきたいと決意している。

総務部報告

（総務部長　飯島　光正）

本年度も各部、地区幹事、部長名簿を作成し、全都の地区部長、地区幹事に配布した。また、年間事業は右記の通りである。

①の定期総会は今年度も多くの参加者を集うねらいで、時間帯を遅らせた。また、昨年度に引き続き講演会は行わなかった。講演会については今後の課題と捉える。

②は、全英連中学部が主催し、本年度で３年目を迎えた。

③の都中英研部長・幹事会は昨年度は実施できなかったが、今年度は次年度から教育課程の移行期間にあたることも併せ、「新学習指導要領の概要の説明」を行った。また元文部科学省教科調査官の新里眞男先生から「これからの中学校英語教育について」という演題で講演会を開催した。50人以上が参加し、盛大に行われた。

④の関ブロ長野大会は11月７日(金)に長野県上田市で行われた。昨年同様大会が１日開催となった。今年度は「国際社会で生きる力を育てる英語教育」―知識・技能の習得とその活用を図る指導を通して―を主題に開催された。東京からは、「適切な表現を選択して話すことができる力を高める指導と評価」を研究主題に足立区立第六中学校の紺野正典先生より実践に基づいた提案があった。また、西貝裕武指導主事先生に指導助言を頂いた。関ブロ大会への参加者は昨年に比べ若干増加したが、30名以上の参加者を目標としているので、事務局としても働きかけを工夫改善していきたい。少人数制指導等に伴い、先生方がなかなか現場を離れられない状況や出張の許可が下りない実態を各地区から頂く。今後、研修や研鑽の大切さを見直し、先生方が積極的に研修会等に出られる環境作りを考えていくことは都中英研本部の責務と捉えている。平成21年11月13日(金)には埼玉県所沢市にて関ブロ埼玉大会が開催される予定である。所沢は東京に隣接しているという地の利を生かし、多数の参加者を集っていきたい。そのためには、大会案内を各地区で積極的に紹介していただき、一人でも多くの参加者が集まるよう各地区部長・地区幹事の先生方にご協力を頂きたい。

11月21日(金)、22日(土)には、全英連鹿児島大会が鹿児島市民文化センターにて行われた。

【年間事業】

① ５月　定期総会
　・資料作成　　・受付業務

② ７月　第３回全英連中学部研究協議会
　・受付業務

③ 各区市町村英語教育研究部長・幹事会
　於：豊島区立西池袋中学校

④ 関ブロ東京都事務局
　・11月関ブロ長野大会参加事務
　（大会案内の発送、大会申し込みの受付等）

事業部報告

（事業部長　横山　達也）

1．第25回授業力アップ研修会

日　時：平成20年11月13日（木）
会　場：練馬区立八坂中学校
授業者：伊地知　可奈教諭
講　師：山本　展子先生
（教師道場教授）

研究授業では、Whose...? の復習と本文の内容理解をねらいとした授業が展開された。

Whose...? の復習では、パソコンを使って先生の写真とカップを提示し、生徒の関心を高めていた。また、本文の oral introductionにもパソコンを利用し、テンポよく授業が進められていった。生徒が楽しく意欲的に学習に取り組み、積極的に活動している姿を見て、自分ももっと授業を工夫してみようという気持ちになった。教室に入りきれない参観者のために、隣の教室にモニターが用意されていた。

講師の山本先生からは、既習事項のWhose...? については、communicative drillをする必要があること、どのような場面でWhose...? を使う必然性があるかを考えて、指導計画を立てることなどの指摘をいただいた。

また、生徒の考える力を育てるために、間を与えることの大切さも教えていただいた。

2．第61回東京都中学校英語学芸大会

日　時：平成20年12月７日（日）
会　場：東洋学園大学
本郷キャンパス１号館

今年度は、例年会場になっていた宝仙学園中学高等学校が工事のために使用できないため、東洋学園大学をお借りして開催した。

11階にある体育館をホールとしたため、大道具の制約があるなど、初めての会場で心配もあったが、出場校の先生方や中英研各部からのお手伝いの先生方が協力してくださったおかげで、スムーズに進行することができた。

大会記録

スピーキングの部（参加11校）
１位　Life
桑原ひかり
（世田谷区立駒沢中学校）
２位　I Mind Being Alone
木村　啓顧
（北区立稲付中学校）
特別賞　New Reading
久貝　里奈
（荒川区立原中学校）

プレイの部（参加13校）
１位　Run, Melos, Run
足立区立第十二中学校
２位　Run, Melos, Run
中野区立第九中学校
３位　Heal the World
-Urashima Jiro 2008
千代田区立九段中等教育学校
特別賞　King Lear
東久留米市立中央中学校
審査員　Mr Edward Weinzierl（ALT）
Mr Jamie Dunlea（英検）

調査部報告

Communicative Testingへの挑戦

（調査部長　重松　靖）

◇平成20年度実施状況

平成20年度中英研コミュニケーションテストが多くの先生方のご支援とご協力を得て実施することができたことにまずは感謝いたします。

今年度の実施状況は以下の通りである。

２年　4,166人（43校）
３年　3,972人（42校）
総計　8,138人
　　延学校数　85校
　　学校数　　58校

昨年度と比較すると学校数では13校、生徒数では約2,000名減となってしまった。本テストのＰＲ不足とともに、昨年度のテストにおいて単純なミスが目立ち、コミュニケーションテストそのものに対する信頼性に疑問を持たれた先生方が多かったためではないかと猛省している。

そこで、今年度は東京外国語大学教授の根岸先生による指導を複数回にわたってお願いするとともに、学年担当副部長を新たに置き二重・三重のチェック体制をしいた。残念ながら、スペリングミスが一ヶ所あったが、実施校の先生方からお寄せいただいたアンケートの集計(右図)を見ると大きな問題はなかったのではないかと思っている。

◇ コミュニケーションテストの特徴

ここで、コミュニケーションテストについて再度説明させていただきたい。

①２・３年の９月までの履修範囲で、５領域別に到達度を測り、東京都全域で実施し、参加校の平均点を示すことができる。

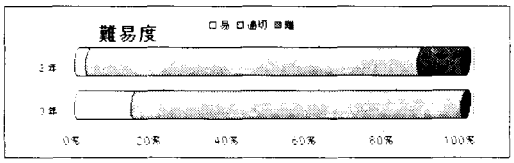
②「テスト問題は授業の裏返し」、「評価は授業の道しるべ」と考え、コミュニカティブな授業の内容を生かし、実際の言語の使用場面での運用力を測る。

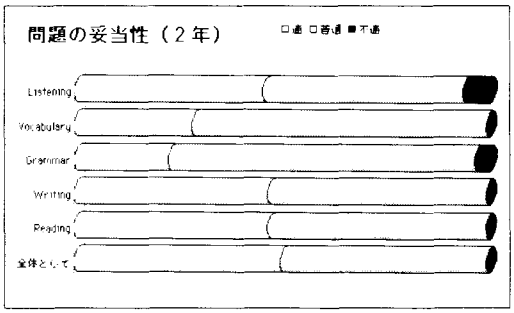
③実際の生活場面を考慮し、そこで使われている言語をできるだけ多く扱い、自然で適切であることを心がけ、コミュニケーション能力を測る工夫をしている。

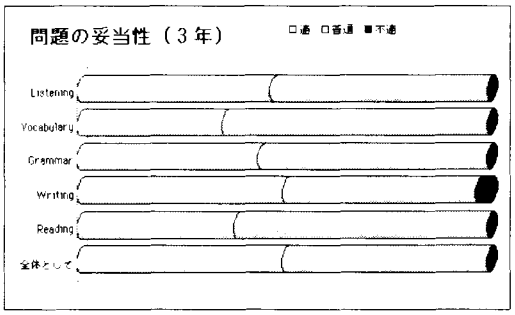
④５領域別に、何を測るかというねらいを明確にして問題を作成するので、観点別評価をつける時に評価材料となる。

⑤結果は個人成績表で返還される。個人票には、５領域別に各自の得点と自校の平均点が棒グラフで表示されているので、生徒には自分の反省点が明確になる。また、教師には授業での指導の改善に役に立つはずである。

⑥教育測定研究所の精度の高い分析（項目の基本統計量や因子分析等）により、常に問題の妥当性や質をチェックし、良問であるように心がけている。







◇定期テスト問題作成へのヒント

我々調査部員は問題を作成するにあたり、次のような点に留意している。これらの視点は定期テスト作成時にも必ず役立つはずなので、是非参考にしていただきたい。

①テスティングポイントの明確化

良いテストとは、テスト後に生徒自身が何が理解できていて何が不十分なのかがはっきりと分かるものでなくてはならない。そのためにも、問題ごとにテスティングポイントを明確に示すべきである。入試問題に見られる「長文総合問題」は定期テストには不向きである。

②目的にあった出題方法

語順の定着度を見たいならば、英文を書かせるのではなく、記号による並べ替えで十分である。Listening の力を測るのであれば、英文を読んだり、書いたりする問題は不適である。目的にあった出題方法を工夫しなければならない。

③目的に合った採点基準

たとえば「書く力」を評価するときに文法の正確さを中心に減点法で評価してはいないだろうか。文法や綴りの誤りがあったとしても、意味が通じる、さまざまな語彙を使おうとしている等、さまざま観点から評価をしてあげたい。

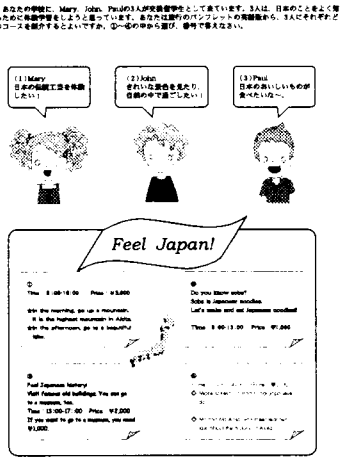
④自然な場面の明示

Reading の問題では、誰がどういう場面で読むのか、Listening ではなぜ聞かなければならないのか、等々自然な場面を明確に示すことが大切である。コミュニケーションを実感できる問題づくりに努めたい。

◇テスト参加へのお願い

21年度テストへの参加を重ねてお願いすると同時に、年度当初にテスト参加費として、生徒１人280円の予算の計上を是非お願いしたい。

20年度　３年 Reading 問題



◇最後に

本年度もご多忙な中、ご指導くださった東京外国語大学教授根岸雅史先生と手弁当で熱のこもった検討を重ねた調査部員に心より感謝申し上げる。

研究部報告

～collocationリストを活かした指導と評価～

（研究部長　北原　延晃）

1　研究の概要

今年度は、昨年度完成した「重要動詞におけるコロケーションリスト」を活用することが主眼となった。ワークシートやテストなどを実際に作成し、授業で活用した。また、そこで得られた成果と課題を部会で発表、検討を重ねた。さらに、夏の語い指導ワークショップも例年にならい３日間行い、その中で部員が行ったリストの活用事例等を発表した。今年も計100人近い参加者を迎え、研修を深めることができた。

2　コロケーション指導

（1）平成19年度に作成した「重要動詞のコロケーション調査」の表を授業での実践やテスト、教材プリントの参考にし、取り入れた。

（2）月１回の部会で、部員がそれぞれの実践を発表した。

例・リストを参考に目的語から動詞を選ばせるワークシート。

・動詞と目的語をマッチングさせる動。

・目的語をかえるワークシート。

（3）それぞれの実践内容について、意見を出し合った。実践者は意見を参考に改善を図った。

（4）実践発表を行う中で、考えていくべき事柄として、以下のことが挙がり、話し合いの時間を持った。

・指導案検討の時のように語い指導実践を徹底的に検討する。

・辞書指導をどのようにやるか。どの語を引かせるか。

・単語テスト、スペリングコンテストは是か非か。

・コロケーションの指導をもっと大事にする。（ろくに指導をしないで、評価やテストに比重が移らないように）

・１年生（または各学年の各段階）でつづりをどこまで求めるか。

（5）結果の検証

改善した実践を授業に取り入れ、生徒にどのような力がついたのか、更に改善の必要はあるのか等検証していく。また（4）で話し合った内容も含め、授業へフィードバックしていく。

出版部報告

（出版部長　池田　武男）

出版部では、例年通り「都中英研だより」と「都中英研会報」を発行した。これらの機関誌は、都中英研の活動内容を都内各中学校の英語科教員に広く知っていただくとともに、情報交換の場として、英語科教員相互の連携を深め、都の中学校英語教育の一層の充実、発展のために役立たせることを目的としている。そして、都内の全中学校及び教育諸機関等へ配布している。また、昨年度からリニューアルされた「都中英研ホームページ」にも連携し、これらの機関誌を掲載することにより都外へも広く都中英研の活動を紹介している。なお、今年度の活動状況は以下の通りである。

・「都中英研だより」第55号

（7月10日発行）

都中英研会長挨拶、中英研総会報告、中英研年間事業計画、主な研究会協議会の案内、役員紹介、コミュニケーションテスト紹介、その他のお知らせ、等を掲載した。

・「都中英研だより」第56号

（11月21日発行）

研究部サマーワークショップ報告、各地区英語研究会の紹介（葛飾区の取り組み）、全英連中学校部会上半期の活動報告、各市区町村英語教育研究部部長会・幹事会の報告、その他のお知らせ、等を掲載した。

・「都中英研会報」第67号

（3月上旬発行）

都中英研の年間活動報告や英語教育活動全般のまとめとして、都中英研会長所感、文科省・都教育委員会等英語教育関係所感、英語学芸会報告、都研修センター報告、各地区活動状況、中英研事業報告、各部活動報告、等を掲載し発行した。

部会は、年5回開き、その際、各部員個々の研修を深めるための情報交換も熱心に行った。また、英語学芸会をはじめ、各事業へも部員が率先して参加協力した。昨年度より取り組んだ、編集作業の効率化や経費削減に努めるための原稿のデータ処理等をさらに深めることができた。今後も一層の責任をもち、編集の改善に図る所存である。

プロジェクト・チーム部報告

（プロジェクト・チーム部長
石川　賢司）

今年度は昨年度の研修を踏まえて、具体的なテーマを「音読からスピーキングへの指導」と設定し、研究に入った。

現在、音読指導はごく一般的に行われている。また、音読指導の方法についても教員の創意工夫があり、さまざまな方法が試みられている。一方、スピーキングの指導として、スピーチの指導は広がりがみられるが、生徒自ら発話する、あるいはやり取りをする、しかもimpromptuな発話を含む、といったいわゆる会話活動はなかなか指導が難しく、そのための指導のプロセスが見えにくい。

そこで、本研究では音読とスピーキングの間には何があるのか、何が必要なのかを探り、指導のプロセスを明らかにし、具体的に教室で使える指導法をまとめることとした。

各部員のこのことに関わる実践報告をもとに、音読からスピーキングにつながると思える活動をいくつか取り上げ、現在、実験的に継続実践を行っている。

今後、この実践の成果・課題をまとめると同時に機会を得て、広く発表していく予定である。

（文責　三鷹市立第三中学校長　安原　美代）

第48回　十五大都市公立中学校英語教育研究会連絡協議会

広島大会報告
開催日：平成20年10月17日
於：ホテルセンチュリー21広島

「これからの英語教育のあり方」（授業改善に向けて）をテーマに協議された。

1　情報交換

各都市の研究会の学校数、会員数、研究主題、会費、現状と課題などについて報告された。どの都市でも研究会の運営の難しさ、若手教員の増加、小学校英語の導入、会費等の課題を抱えていることが分かった。

2　特色ある実践報告

札幌市、北九州市、広島市から紹介があった。

広島市からは「英語による表現力を高める指導」と題して、胡子美由紀教諭が発表した。

(1)授業での3つの基本ルール：clarity, cheerfulness, talkativenessに心掛けている。

(2)コミュニケーション(活動)における5＋2のルール：English only, Eye-contact, Keeping smiling, Pronunciation, High five(touch)＋Reaction, Gesture

(3)授業、アクティビティのベースを重視：Use realistic situations, Focus on student's speaking, Involve, Fun, Educational

(4)その他の留意事項：Don't translate everyting, Build a solid communication, Balance talking time, Build a relationship, Use real life situations, Make an English friend, Repetition after repetition

(5)帯学習：フォニックス、チャンツ、歌、ボキャブラリーノート、Q&A、Explanation Game, Show and Tell , Talk and Report, Drill Book, Card Game, One minute monolog

(6)授業以外での英語学習の環境作り：①Speaking：Greetings in English outside of the classroom, Talk in English, English Passport　②Listening：Music, News, Radio, Movie Trailer　③Reading：English bulletin board, Notice(Classroom and corridor), Reading card　④Writing：English Passport, Mail Box, Notebook, Diary/ Letter, Handout(crossword, quiz etc.)など報告された。

3　講演「英語科における小中の連携～広島市の取り組み」

講　師　山田雄一郎先生（広島修道大学人文学部英語英文学学科教授）

過去の英語教育の流れと課題についてご講義いただいた後、学習内容のつながりとシステムや教材整備を重視した、先生が関わる広島市での小中間連携の取り組みをご紹介いただいた。広島市では、小5から必修にし、言語教育の制度的枠組みの一新と中学校英語教育を変える小中一貫プログラムの編成を目指している。2010年度から完全実施予定。目標は、①ことばに対する理解を深める　②第2言語を学ぶ楽しさに気づかせる　③将来の英語学習の基礎をつくる（ことばのネットワーク作り）の3点。言語概念の違いを意識し、会話の上達という視点ではなく、広い視野で脳の質を変えていく。辞書指導も含め、単語を重視し、文は触れるが目標にはしない。500語を定め、100語位定着すればよいという考えで進める。発音を丁寧にする。片仮名と発音記号を組み合わせた辞書を作成中。数、費用の関係でALTは入れず、担任が英語科免許を持つ人とペアで指導する。ボランティアではなく、報酬を支払う。週15分×3日という形で進める。差し込みできる教材を作成するなどご教示いただいた。

◎詳細は都中英研のHPでご覧ください。

（文責　足立区立花畑北中学校長　田幸　徹）

2008
第58回　全英連総会
全国英語教育研究大会
(鹿児島大会)

大会コンセプト

「Ishin—世界を拓く若者が育つ英語教育」

英語好きを育てることを原点に、実践的コミュニケーション能力や態度を培い、異文化に生きる人々と共に世界の未来に貢献しようとする志を持った日本人を育成する教育の在り方を探る。

時：平成20年11月21日(金)・22日(土)、
ところ：鹿児島市民文化ホール他

1　第１日（総会／記念講演／授業及び授業研究／パネルディスカッション）

総会に引き続き、吉田研作氏（上智大学外国語学部教授)の英語による記念講演(演題「英語が使える日本人を育成するには何が必要か」）が多くの資料に基づき格調高く行われた。今後の英語教育にたくさんの貴重な示唆を与えていただいた。

午後、鹿児島市立伊敷中学校　宮之脇圭教諭による研究授業が行われた。

注目すべきは鹿児島 Standard of Reference との関連づけである。鹿児島スタンダードは小学校高学年をStep１とし、階段上に英語が得意な高校３年生をStep８としている。研究授業ではStep４である。各Stepを５つのカテゴリーに分けている。

Strategy/Basic Skill

会話を続けるために、相づちを打つことができる。

Really? Is that so? で聞き返す。

Reading

説明文・物語・Ｅメールを読み、書き手がもっとも伝えたいメッセージや概要を理解できる。　内容理解をもとに、自分に照らし合わせ考える

Speaking

友達や先生に、聞いたり読んだりしたことに対して、英文１～２文程度で意見や感想を述べることができる。

I like it. I think~.程度の文で述べる。

Writing

身近なトピックについて、思い・考え・意見・理由などを英文５文以上で書くことができる。「自分の尊敬する人」について表現する。

また、「自分が目標としている人や、感銘を受けたことのある人について６文程度書くことができる」という２学期の到達目標を達成するために、帯学習を取り入れ、授業導入５分間に目標モデル文を設定し、パターンプラクティスと対話練習により表現力がついたと報告された。

高校の授業研究後「世界を拓く人間力を育てる英語教育—薩摩の英学、郷中教育を振り返り、日本の英語教育の未来を語る」をテーマとして３名のパネリスト、コーディネータによりパネルディスカッションが行われた。

2　第２日（分科会）

中学校の部11分科会、高校の部18分科会、共通の部４分科会が実施された。

中学校分科会のテーマは４領域を中心に指導法のあり方が示され、「習熟の程度に応じた指導法」「表現する力を高めるシラバスデザイン」「英語学習の工夫　ICTの活用」「表現活動のskill upや意欲向上の工夫」等があり、どこも盛会であった。

(文責　江東区立南砂中学校長　清水研一郎)

第32回　関東甲信地区中学校
英語教育研究会　長野大会

研究主題
「国際社会の中で生きる力を育てる英語教育」
～知識・技能の習得とその活用を図る指導を通して～

期日：平成20年11月７日
会場：上田市民会館

長野大会は上田市民会館大ホールで全体会が行われた後、５つの分科会に分かれ第１分科会は上田市立第二中学校、第２分科会は上田市立第一中学校、第３分科会は東御市立東部中学校、第４分科会は上田市立第５中学校、第５分科会は上田市民会館でそれぞれ開催された。東京は第１分科会の担当となり、「適切な表現を選択して話すことができる力を高める指導と評価」をテーマに足立区立第六中学校の紺野正典教諭が発表を行った。以下、全体会と第２分科会の概要を報告する。

１　大会主題設定の理由

私たちが生活する社会は高度情報化・グローバル化し、様々な問題を抱えている。それらの問題は一国の力で解決できるような容易なものではなく、多くの国や民族が、国境や主義主張を越えて、地球規模で考え話し合い行動していかなければ解決できない問題が多い。このような問題を解決しようとするとき、私たちは自分たちの利益ばかりでなく、他人が被る不利益や諸事情を理解することが求められる。そこでは、他の文化や言語に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度と実際に英語を通してコミュニケーションができる能力が必要となる。

英語科は一人ひとりの生徒にコミュニケーション能力の基礎を身に付けさせることを通じて、これらの態度や能力の育成を図っていく責務を負っている。しかし、生徒の実態を見ると、英語に対する意欲や能力が二極化する傾向が一層顕著になってきている。この原因を探るとき、私たち教師が生徒に「わかった」「できるようになった」「力がついてきている」「楽しかった」という達成感や満足感を十分味わわせてこなかったことが反省させられる。授業を終えたときに、生徒が達成感や満足感を感じることができれば、学習意欲をもち、他者を理解し、積極的に英語でコミュニケーションを図ろうとする態度や基礎的・実践的コミュニケーション能力を身につけさせることができるであろうと考えた。

そこで、本大会では、達成感や満足感を味わわせる英語学習の創造を通して、他者に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする生徒を育成しようと考えた。その切り口として、言語材料を実際に活用できるように指導することの工夫と言語の使用場面や言語の働きに配慮し、実際に言語を活用してコミュニケーションを図る指導の工夫も取り上げる。このことが、生徒が国際社会の中で生きる力を育てることにつながると考え、本主題を設定した。

２　記念講演

講師：清泉女学院大学　教授
　　渡邉　時夫先生
演題：「英語教育新時代」における中学校英語教員の役割

【講演要旨】

（a）我が国における英語教育の変遷
　　—コミュニケーションと国際理解に焦点を当てて—

（b）英語が話せる日本人の育成に関する戦略構想のねらい

（c）小学校の「外国語活動」における「素地」の意味

（d）中学生のコミュニケーション能力向上のための具体的提案

　（i）生徒に分かるEnglish input

　（ii）awareness-raisingに必要な具体的手立て

　（iii）その他

3　第2分科会提案概要

東京からは紺野正典教諭が「適切な表現を選択して、話すことができる力を高める指導と評価」を「Focus on form in Task-Based Language LearningにおけるPlus oneの指導」との副題のもとに次のような要旨で発表した。

（1）主題設定の理由

（2）コミュニケーションへの意欲・関心・態度とコミュニケーションのあるべき姿

（3）形式と意味の融和を目指して

（4）Focus on form in Task-Based Language LearningにおけるPlus oneの指導

（5）評価について

紺野教諭の実践は、1年間に3回のスピーキング試験を実施し、生徒は1分間でALTとどれだけ話ができたか、その語数をカウントしている。1年生の1学期に目標を1分間で60語、ALTに話しかけられるターン数を5回に置き練習を繰り返した。その際、negotiation of meaning を大切と捉え、自己紹介を60秒のうちの15秒までに押さえ、残りの時間を意味のやりとりとする。

このような練習後に教科書に出てくるPlus oneの英文に移行する。この活用によって生徒は1つの英文にもう1，2の英文を加えて発表できるようになってきた。

このような生徒の変容を実際の画像により紹介された。素晴らしい実践的な発表であった。

（豊島区立西池袋中学校長　飯島光正 記）

各地区の活動状況

千代田区……36左
中央区……36右
港区……37左
新宿区……37右
文京区……38左
台東区……38右
墨田区……39左
江東区……39右
品川区……40左
目黒区……40右
大田区……41左
世田谷区……41右
渋谷区……42左
中野区……42右
杉並区……43左
豊島区……43右
北区……44左
荒川区……44右
板橋区……45左
練馬区……45右
足立区……46左
葛飾区……46右
江戸川区……47左
八王子市……47右
立川市……48左
武蔵野市……48右
三鷹市……49左
青梅市……49右
府中市……50左
昭島市……50右
調布市……51左
町田市……51右
小金井市……52左
小平市……52右
日野市……53左
東村山市……53右
国分寺市……54左
国立市……54右
福生市……55左
狛江市……55右
東大和市……56左
清瀬市……56右
東久留米市……57左
武蔵村山市……57右
多摩市……58左
稲城市……58右
あきる野市……59左
西東京市……59右
羽村・西多摩……60左
大島……60右

千　代　田　区

Ⅰ．研究主題

「少人数・習熟度別授業の実践と工夫
～少人数・習熟度別を生かした教材及び評価の研究～」

研究経過：

英語部会

情報交換

自主研修

授業研究（麹町中学校）

ペスタロッチ祭

研究のまとめ：

個に応じたきめ細かい指導と評価ができた。生徒とのコミュニケーションを深めながら、関心・意欲を高めて、各個人が前向きに授業に取り組む姿勢を育てることができた。教材は習熟度別に用意する場合もあり、各学習集団としての向上も見られた。

（神田一橋中学校教諭　鈴木達彦 記）

中　央　区

Ⅰ．研究課題

区内英語研究部では、学習指導要領の「実践的なコミュニケーション能力の育成」という指導目標に照らし、「表現力を高めるための指導の工夫」を主題として設定し、本年度取り組んできた。

Ⅱ．少人数授業

本年度は、区独自でスタートした少人数授業の導入２年目となり、区費講師が各校２名ずつ配置され、その区費講師と専任がペアとなり、１クラス２展開の授業を基本として、それぞれの学校・学年ごとで試行錯誤を繰り返しながらの授業となった。

昨年度１名だった区費講師を、今年度は各校２名の配置として、実施されて間もないこともあり、いまだ改善の余地は多大に残しながらの１年となったが、今年度の反省を生かしつつ、来年度に引き継いでいきたい。

Ⅲ．スピーキングテスト

この数年、「スピーキングテスト」を実施している。幸いにも、ALTが全校にほぼ常駐の形を取れているので、平常の授業でのALTとのTTでの授業はもちろん、10月・11月にかけて自校・他校のALTとのペアで、全生徒を対象に既習の簡易な表現を用いて、Ｑ＆Ａ形式でのテストを実施している。名前には「テスト」となっているが、あくまでもふだんとは違うALTとの「コミュニケーションの機会を増やす」ことを第一義の目的として継続して実施されてきている。実施形態は、ほぼ固定し、来年度以降引き続き実施される予定である。

（佃中学校教諭　田中光一 記）

港　　区

Ⅰ．研究主題

「小中の連携を進める授業の工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇５月28日

研究主題決め・組織・年間計画作成

◇６月18日

研究授業　授業者　北原延晃先生

◇９月10日

研究授業　授業者　川村えり子先生

講師：昭島市立瑞雲中学校

相澤秀和先生

◇11月５日

英語発表会 優勝　六本木中スピーチ

審査委員長：山本新治氏

◇１月14日

研修会「小中連携英語教育」

講師　東洋学園大学教授

荒木秀二先生

◇２月18日

英語発表会・一年間の研究のまとめ

Ⅲ．今後の課題

今年度は小中連携の充実を図るため、２回の研究授業や英語発表会を通じて、各学校での取り組みについて研修を深めた。また、国際科推進委員会や特区担当者会との連携も図り、小学校英語活動への助言や中学校入門期の英語力定着調査、小学校テキストのカリキュラム分析などを行った。今後は、２年目を迎える海外派遣に対する英語科としての関わり方なども検討していきたい。

（赤坂中学校長　牛島順子 記）

新　宿　区

Ⅰ．研究主題

「指導と評価の一体化」

①観点別学習状況の精度を高める指導と評価の在り方

②小学校との英語教育における望ましい連携の在り方

Ⅱ．活動の経過

◇５月14日　新中教研一斉部会

組織作り、研修テーマ・計画決定等

◇７月３日　授業研究　（於：西戸山中）

授業者：二宮正男教諭・ＡＬＴ

大森清次教諭

講　師：阿野幸一先生

（文教大学国際学部准教授）

◇７月24日　夏季英語部研修会（全日）

講　師：山本新治先生

（前練馬区関中学校校長）

研修テーマ

①「指導と評価の一体化」―３年生の定期考査問題の検討

②「小中連携」

◇８月20日

第24回新宿区英語学芸発表会

◇10月15日　新中教研一斉部会

講　師：竹田秋人先生

（新宿区国際理解教室室長）

研修テーマ

「新学習指導要領を読み込む」

―小中連携を踏まえて

◇10月30日　授業研究（於：牛込三中）

授業者：大澤陽子教諭　松本明子教諭

講　師：竹田秋人先生

◇２月９日　授業研究（於：西早稲田中）

授業者：須藤礼子教諭(講師:未定)

（牛込第一中学校教諭　関　実 記）

文　京　区

Ⅰ．研究主題

「実践的コミュニケーション能力を育てる指導の工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇４月25日(金)　一斉部会

①場　所：本郷台中

②平成20年度事業報告、会計報告

③今年度の役員選出、年間事業計画の設定

◇９月９日(火)　研究授業

①対　象：2年生

②授業者：島田順子教諭

(文京区立第六中学校)

Mr Leigh Noske

◇11月21日(金)・22日(土)

全英連大会

①参加者：吉田直樹教諭

(文京区立第五中学校)

②場　所：鹿児島市民文化ホール

◇１月19日(火)　一斉部会

①場　所：文京区立第一中学校

②「ALTとのティームティーチングの工夫」というテーマの元にオールイングリッシュで行われたワークショップ

(文京第八中学校主幹　阿久津仁史 記)

台　東　区

Ⅰ．研究主題

「基礎・基本の定着を目指して」

～さまざまな授業形態における指導と評価の工夫・改善～

Ⅱ．活動の経過

◇４月９日　台教研一斉部会

組織作り、研究目標、活動計画

◇５月21日

第１回英語学芸会検討委員会

◇７月２日　第１回授業研究

各学校で授業のワークシートや資料などを使って、情報・意見交換を行った。

第２回英語学芸会検討委員会

◇８月26日

台教研講演会

◇９月18日

第３回英語学芸会検討委員会

◇10月８日　台教研一斉部会

・研究授業　木下千歩教諭（忍岡中）

授業内容New Crown 2 Let's Read 1

・講　師　倉住 修 先生

(白百合女子大学准教授)

コミュニケーションを身につけさせるためのさまざまな工夫を紹介された。

◇11月８日　英語学芸会

(ミレニアムホール)

◇２月４日　台教研研究発表会

(忍岡中学校教諭　伊藤眞知子 記)

墨　田　区

Ⅰ．研究主題

「基礎・基本の定着を図り、コミュニケーション能力の育成と指導工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇４月16日　区教研一斉部会

組織づくり、研究主題、活動計画、

◇７月２日　研究授業

場所・対象：文花中学校　２年生

授業者：竹内　みどり教諭

講　師：國學院大学講師

後関　正明　先生

内　容：コミュニケーション能力をどのように育てていくか学ぶことができた。

◇８月22日　サマーワークショップ

場　所：墨田中学校　会議室

講　師：港区立御成門中学校

井村　哲也　先生

内　容：実践的な授業形態と効果的な指導方法が研修できた。

◇11月14日　区連合学芸会

場　所：曳舟文化センター

都立附属両国中学校　参加

英語劇“Rainbow Maker”上演

◇12月３日　研究授業

場所・対象：鐘淵中学校　１年生

授業者：角田　幸彦　主幹

講　師：ＡＩＧイースト・アジア・ホールディングス・マネジメント株式会社

副会長　近藤　章　先生

内　容：リーデング指導からグループワークにし、活性化した授業を構築していく指導方法を学んだ。

（墨田中学校長　松本憲一 記）

江　東　区

Ⅰ．研究主題

・「基礎学力の充実を目指した指導と評価の工夫」

（小学校の英語活動を考慮して）

・「実践的なコミュニケーション能力育成を目指した指導と評価の工夫」

（新学習指導要領を意識して）

Ⅱ．活動の経過

◇５月７日　区中研一斉部会

・会　場　第二砂町中学校

・内　容　活動計画、組織作り等

◇６月23日　区中研英語部研究授業

・授業者　岩崎友紀子教諭（第二南砂）

Graham Mackenzie

・単　元　Columbus21 1学年Unit3

◇７月29日～８月１日

英語科教員の外国人講師導入に関わるワークショップ研修会（夏季集中講座）

・場　所　British Council

◇10月22日　区中研一斉研究日

・授業者　板橋貴子教諭（辰巳）

・単　元　Columbus21 １学年Unit６

◇11月６日　江東区英語学芸会

・会　場　江東文化センター

・内　容　Speech 10名、Others ２校

Play ３校参加

・Play部門“The Sound of Music”

(東陽中)都大会出場

◇11月10日　小学校英語研修会

◇２月４日　区中研一斉部会

（深川第七中学校教諭　佐々木孝紀 記）

品　川　区

Ⅰ．研究主題

＊(1)小中一貫部(2)研究部

(1)「小中連携を目指した英語科指導」
～フォニックス指導と関連づけた英単語の習得に視点をおいて～

(2)「5、6年生から7年生へのスムーズな移行」
～音声と文字の一致に向けた指導の工夫～

Ⅱ．活動の経過

◇4・5月　定例教育会にて組織・計画

◇6月4日 小中合同研究授業・協議会
授業者：能登　美和　教諭(東海中)
講　師：片山　知子　先生
(MPI教育アドバイザー)

◇8月6日　英語科研修会
講　師：Jason Cottrell先生
(株式会社インタラック)
中村　貴美子　先生
(世田谷区立梅丘中学校長)

◇8月7日　英語科研修会
講　師：諸橋　稲　先生
(小学館集英社プロダクション教育事業局)
長沼　君主　先生
(東京外国語大学外国学部専任講師)

◇9月10日　研究授業・協議会
授業者：小野澤涼子教諭（伊藤学園）
講　師：白畑　知彦　先生
(静岡大学教授)

◇11月7日　英語学習成果発表会

◇11月12日　小中合同研究授業・協議
授業者：大田　美保　教諭（山中小）
講　師：渡辺　浩行　先生
(宇都宮大学教育学部教授)

◇2月　小中合同研究発表会

◇3月　役員会　反省と次年度計画
(大崎中学校教諭　青山麻希 記)

目　黒　区

Ⅰ．研究主題

「確かな学力を身に付けさせる指導の工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇4月9日
英語部組織作り、研究主題決め
年間活動計画作成

◇7月9日
研究主題に関する研修、情報交換

◇9月24日
(1)研究授業・研究協議会
・授業者：佐々木昭央教諭（目黒九中）
・講　師：中村貴美子先生
(世田谷区立梅丘中学校長)
演　題：「新学習指導要領へ向けて」
(2)研修主題に関する研修、目黒区英語学芸大会代表選考会の打ち合わせ

◇11月14日
英語学芸大会目黒区代表選考会
(目黒九中)

◇12月3日
研究主題に関する研修、研究発表について検討、英語学芸大会目黒区代表選考会の反省

◇2月4日　研究発表分科会
(目黒中央中)
講　師：牛島　順子先生
(港区立赤坂中学校長)
演　題：「生きる力をはぐくむ英語教育」
～移行措置を前に、準備しておくこと～
(第九中学校主幹　金久保勝 記)

大　田　区

Ⅰ　研究主題

「コミュニケーションへの関心・意欲を高める導入の工夫」

Ⅱ　研究の経過

◇４月16日　区教研一斉部会

・組織作り、各部活動計画、情報交換

・授業改善に関わる協議

①中学校英語の授業改善のポイント

②少人数指導の推進

③指導内容・方法の改善のポイント

④評価の改善のポイント

◇10月22日　授業研究会

小学校英語活動研究会に参加

“Let's go shopping”

授業者：保科　千恵美教諭

道塚小学校　５年担任

講　師：文京学院大学外国語学部英語コミュニケーション学科教授

渡邉　寛治先生

◇11月12日　連合学芸会(英語の部)

場所：大田区民センター

Speechの部25名、Playの部６校、Song１校が発表、区代表は２年連続で大森第八中学校英語部が“Chris and the Puppets”で都英語学芸大会Playの部に出場

◇12月～２月　研究紀要作成

◇２月10日　区教研一斉部会

一年間の活動のまとめ

講演会「今、小学校の英語活動は」

講　師：大田区立道塚小学校長

山本　惠美子先生

（馬込中学校副校長　内山哲夫 記）

世　田　谷　区

Ⅰ．研究主題

１．「実践的コミュニケーション能力を育む英語指導と評価の工夫」

２．「小学校英語から中学校英語への円滑な移行の工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇５月14日　前期一斉教育研究会

組織編成、研究主題決定、役員会

◇６月７日　区教科研究集会

授業研究　第２回役員会

◇７月４日　第３回役員会

◇８月22日　夏季研修会

講　師：太田洋准教授（駒澤女子大学）

第４回役員会

◇９月18日

スピーチコンテスト打ち合わせ

◇10月１日

スピーチコンテスト予選会

第５回役員会

◇10月21日

第６回役員会

スピーチコンテスト本選

◇11月５日　後期研究集会

スピーチコンテスト本選

◇11月19日

国立・私立・公立交流会

於：昭和女子大学

◇12月５日

スピーチコンテスト反省会

第７回役員会

◇３月４日　第８回役員会　反省会

次年度の活動改革・組織作り

＜研究授業＞

１学期　玉川中学校

２学期　山崎中学校、北沢中学校

３学期　駒沢中学校

（三宿中学校長　岡部正直 記）

渋　谷　区

Ⅰ．研究主題

「コミュニケーション能力向上に向けた実践方法の研究」

Ⅱ．活動の経過

◇５月７日　渋中研英語部会

〇研究主題の設定

〇活動方針　組織作り等

◇９月～　研究紀要作成

◇11月27日　渋中研英語研究授業

授業者　原宿外苑中学校
　　坪田　裕希教諭

対　象　１年生（２分割授業）

内　容　人称代名詞の格変化理解
　　〇格変化の使い方の理解
　　〇トランプカードを使用したゲームの導入他

講　師　後関　正明先生
　　(ILEC言語教育文化研究所)

講　演　〇授業についての講評
　　〇「新学習指導要領の改訂ポイントについて」
　　〇その他

◇１月９日　役員会

研究発表会について

◇２月18日

〇渋中研研究発表会　代々木中学校
　研究紀要にて発表
　※講師等は未定

〇英語部会反省会

（笹塚中学校長　島本環樹 記）

中　野　区

Ⅰ．研究主題

「基礎・基本の定着と実践的コミュニケーション能力の育成を図る指導の工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇４月23日

平成20年度中野区英語科部会組織作り

◇６月18日　中野区教育研究会総会

事業報告、会計報告、役員選出、事業計画、予算案、情報交換

◇７月28日　夏季研修会

講　師：山本　新治先生
　　（三菱商事海外子女教育相談室室長）

演　題：「新学習指導要領「英語」についての改訂のねらいと授業改善について」

◇８月25日　夏季研修会

中野区立第三中にてワークショップ開催

◇10月29日　研究授業・研究協議

授業者：中村友美教諭

講　師：竹田　秋人先生
　　（新宿区教育委員会教育指導課教育センター国際理解教室）

演　題：「中学校英語新学習指導要領の概要」

◇11月15日　中野区英語学芸発表会

（野方ＷＩＺ）

優勝校の中野九中は都大会で２位入賞

◇２月13日　中教研発表会

講　師：府中第一中学校
　　小美濃　博教諭

発表会後、今年度の反省と来年度の活動予定についての研究会

（第四中学校教諭　小川美治 記）

杉　並　区

Ⅰ．研究主題

「実践的コミュニケーション能力を高める指導と評価～小学校との連携を見据えて～」

Ⅱ．活動の経過

◇４月16日(水)　杉教研中学校部会

◇５月14日(水)　杉並教育研究会総会

◇７月30日(水)～８月１日(金)

内　容　英語科夏季ワークショップ

○「教科書２年Unit４、３年Unit５の導入・展開方法」

○「英語運用能力のbrush up等」

○「英語の学び方・・・同時通訳者の提言・・・」

○「原点を確認する基本的な授業のあり方」

○「小学校英語で大切にしたいこと」

○「話し合いと情報交換」

◇10月８日(水)　幼小中合同教育研究会

内　容　授業研究

「みんなで楽しくLet me try!」

・・・子どもが活躍できる英語活動をめざして・・・

◇11月７日(金)　英語学芸発表会

◇12月７日(日)　東京都英語学芸大会

参加校　杉並区立高井戸中学校

◇1月15日(木)

英語科冬季ワークショップ

「50分授業の基本的なデザインの仕方」

講　師　府中第二中　田口　徹先生

◇１月21日(水)　杉教研教科部会

◇２月中旬　杉並区リスニングコンテスト、

１・２年生対象

(東田中学校副校長　森戸　繁 記)

豊　島　区

Ⅰ．研究主題

「国際教育の推進に果たす英語科の役割」

－実践的コミュニケーション能力を育成する指導法の工夫－

◇４月16日　区中研一斉部会

組織作り、研究主題、年間活動計画、ALTの活用について、小人数制指導について、小学校英語活動についての確認

◇ ８月28日

第２回区中研英語部会（西池袋中）

内　容：新学習指導要領の改訂に向けての今後英語教育について等

(都中英研各区市町村部長・幹事会の内容と同じにしました。)

◇ 11月５日　区中研一斉部会（西巣鴨中）

研究授業と研究協議

授業者：田中すみ子 教諭

熊澤　和志 講師

(西巣鴨中)

単　元：２年　Lesson５

Speech “My Dream”

講　師：荒木　秀二 特任教授

(東洋学園大学)

「新学習指導要領と小中英語の接続」

(西池袋中学校長　飯島光正 記)

北　　区

Ⅰ．研究主題

「実践的コミュニケーション能力の向上をめざした授業の工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇５月２日　北区教育会一斉部会

組織作り、研究目標、活動計画、情報交換

◇10月16日　研究授業、協議会、部会

授業者：松本　史教諭（明桜中）

対　象：１年

内　容：Sunshine English Course1 Program 4

授業形態：ティームティーチング

◇11月14日　連合学芸会英語スピーチコンテスト

場　所：北区立滝野川会館

参加者：６校８名

最優秀生徒は東京都英語学芸大会に参加できる。

◇12月７日　東京都英語学芸大会英語スピーチ参加

稲付中２年　準優勝受賞

◇２月12日　教育研究発表会研究授業、協議会

授業者：山岸　明子教諭（十条富士見中）

対　象：２年

内　容：Sunshine English Course2 Program 9

講　師：難波　浩明（北区教育委員会統括指導主事）

（岩淵中学校副校長　石川慎一郎 記）

荒　　川　　区

Ⅰ．研究主題

「積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成」

Ⅱ．活動の経過

◇４月16日（水）

組織作り、研究主題設定

◇６月18日（水）研究授業

授業者：第一中学校　石橋弘毅教諭、田中香織教諭、藤井和佳子教諭

１学年２学級少人数指導。当日は、旧第五学区の中・高等学校の研究授業を兼ねた。

◇９月17日（水）講演会

講　師：本多敏幸氏（千代田区立九段中等教育学校教諭）

テーマ：「コミュニケーション能力を図る活動実践と評価」

会　場：諏訪台中学校

◇11月５日（水）

第28回スピーチコンテスト

会　場：サンパール荒川会議室

◇11月19日（水）　研究授業

授業者：第三中学校木勝彦教諭

小椋由紀子教諭　赤田洋一教諭

１学年少人数指導。

本会は小学校部会との合同開催

◇１月21日（水）　小中合同部会

第二日暮里小の授業見学と研究協議

◇２月18日（水）　研究発表会

実践報告会と講師による講演

（諏訪台中学校教諭　山崎　聡 記）

板　橋　区

Ⅰ．研究主題

「書くことの指導と評価の在り方」

Ⅱ．活動の経過

◇4月16日

役員選出、研究主題及び年間研究活動計画等の策定

◇6月5日　研究授業・研究協議会

授業者：織戸昭夫教諭（赤塚二中）

Mr. Craig Palmer（ALT）

単　元：New Crown 2　Talk 2

◇8月25日　夏季ワークショップ

主　題：教材・言語活動の工夫、team-teachingの工夫

（西台中会場）

講　師：Mr. Thomas Ashlin

授業者が具体的にどのように授業を組み立てるかを中心に講義だけでなく、具体的な演習を取り入れた。

◇11月6日　英語の集い

成増アクトホールにて実施、16組の参加、板二中がplay部門で都の英語学芸会にて発表。

◇11月12日　研究授業・研究協議会

授業者：西山十海教諭（板橋一中）

岩崎由理教諭（板橋一中）

単　元：New Crown 1　Talk 4

◇1月26日　研究授業・研究協議会

授業者：小川雅裕教諭（上板橋一中）

単　元：New Crown 2　Lesson 7

註1：全ての研究授業では、板橋三中竹下賢校長と赤塚二中稲葉秀哉校長及び担当部長が講師を務めた。

註2：小学校との接続について、情報提供を含め検討を進める。

（西台中学校長　阿字宏康 記）

練　馬　区

Ⅰ．研究目標

基礎・基本の定着を図り、実践的コミュニケーション能力の基礎を培う。また新学習指導要領に向けて基礎研究を行う。

（ア）4技能を関連させた効果的な指導の工夫・改善を図る。

（イ）ALT等の効果的な活用を図り、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成する。

（ウ）英語科教員の資質向上を図るため、夏期研修や授業研究を充実させる。

II. 活動の経過

◇5月21日　区中研一斉部会

◇6月18日 授業研究会（石神井南中）

授業者：長田キムリエン教諭

望月結子教諭

◇7月31日、8月1日　夏期研修会

＊「音声英語の基本と指導法」

講　師：見上　晃　拓殖大学教授

＊「小学校英語を踏まえた中学校の英語指導」

講　師：冨田祐一　大東文化大学教授

＊「実践に役立つ授業の工夫」

講　師：日臺滋之　学芸大学付属世田谷中学校教諭

＊「基礎力をつける英語の授業の組み立てと工夫」

講　師：明石達彦　九段中等教育学校教諭

◇11月1日　英語学芸会　7校参加

“The Harmony of Friendship”（関中）

都大会に出場

◇11月12日　授業研究会（開進一中）

授業者：大宮奈穂子教諭

◇1月26日 授業研究会（練馬東中）

授業者：堀内智子教諭、松岡史恵教諭、山口哲治教諭

（中村中学校教諭　平林澄子 記）

足　立　区

Ⅰ．研究主題

「基礎力の定着をはかる指導と評価の工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇４月23日　区中研一斉教科部会
（第十四中）
組織作り、研究主題、活動計画

◇５月16日　テスティング研修会
内　容：テスト分析、作成演習

◇８月６日　夏季研修会（第十四中）
内　容：講演「コミュニカティブテステングについて」、テスト分析、作成演習
講　師：東京都教職員研修センター
教授　山本展子先生

◇10月17日　足立区連合英語学芸会
（西新井文化センター）
スピーチ・劇・暗唱15校参加

◇11月27日
足立区教育委員会中学校英語科指導資料作成委員会による公開授業研究会
授業者：紺野正典教諭（第六中）

◇1月22日
足立区教育委員会中学校英語科指導資料作成委員会による公開授業研究会
授業者：上田敏夫教諭（千寿青葉中）

◇２月４日　区中研一斉教科部会
（足立区教育相談センター）
内　容：講演「新学習指導要領について」
講　師：東京都教職員研修センター
教授　太郎良博先生

（第八中学校主幹　柏木圭子 記）

葛　飾　区

Ⅰ．研究主題

「基礎学力の定着を図り、実践的なコミュニケション能力を育成する指導の在り方」

Ⅱ．活動の経過

◇４月15日
ＡＬＴ導入全校説明会、割当調整会議

◇５月14日　葛中研全員部会
事業報告、会計報告、役員選出、事業計画、予算案、情報交換

◇７月２日　ＡＬＴワークショップ
ＡＬＴとの効果的な指導法と活用事例の研究

◇９月19日　研究授業・研究協議会
授業者：先﨑由佳教諭（水元中）
講　師：山下喜世子先生
（八王子市立第五中学校教諭）

◇10月17日　第23回葛飾区立中学校英語スピーチ＆プレイコンテスト
（アイリスホール）
レシテイション：12名、プレイ２校、スピーチ22名参加
12月の都英語学芸大会にはスピーチの部優勝者が出場

◇11月28日　ＡＬＴワークショップ
オーラルイントロダクション

◇12月１日　研究授業・研究協議会
授業者：加藤幸子教諭（東金町中）
講　師：馬場哲夫先生
（東京学芸大学准教授）

◇２月20日　研究授業・研究協議会
授業者：中澤徹也教諭（四ツ木中）
講　師：望月正道先生（麗澤大学教授）

（高砂中学校長　余野直紀 記）

江　戸　川　区

Ⅰ．研究主題

「実践的コミュニケーション能力を育成するための指導方法の研究と授業力の向上」

Ⅱ．活動の経過

◇５月７日　区中研総会

英語部会役員会＝組織・研究内容

活動計画等の確認

◇８月26日　夏季研修会

①『教科書指導のプラン・アイデア』

２学期に行う予定の授業案・アイデア・ワークシート・視聴覚補助具などを持ち寄って、指導方法のディスカッションを行った。

②『テストの作成例』

観点別のテストをどう作成するか

◇11月５日　区教研一斉研究日

英語部会・研究授業及び講演

・研究授業　梶田留美教諭（小岩四中）

・授業内容　New Crown1　Lesson６

・講　師　　後関　正明　先生

ILEC言語教育研究所常務理事

「実践的コミュニケーション能力を育成するための指導方法の研究と授業力の向上」

◇11月中旬～スペリングコンテスト

区内各中学校２、３年生対象に実施

◇１月20日　英語部研修会

研究授業　太田恵理子教諭

（西葛西中）

授業内容　New Crown3　Lesson８

講　師　　杉本　　薫　先生

（両国高校附属中）

（春江中学校長　岡野　実 記）

八　王　子　市

Ⅰ．研究主題

「生徒が意欲的に参加する授業を目指して」

Ⅱ．活動の経過

◇４月14日　部会

①本年度の役員の確認

②本年度の研究内容の検討

具体的な研修会の内容について検討。

◇７月28日　パワーアップ研修会

（八王子市教育センターにて）

○講　師（財）英語教育協議会（ELEC）

James Watt（ジェームス　ワット）

○テーマ

「授業に役立つワークショップ」

○講演内容

夏期集中研修に見られるような授業で使える様々な実用的な言語活動

○講師　二宮　正男

（都中英研調査部部員

新宿区立西戸山中学校）

○テーマ

「評価計画とテスト」

○講演概要（レジュメ見出し）

指導と評価・・・指導と評価の一体化

評価計画と指導案・・・３年間の到達目標から１時間の計画まで

観点別絶対評価におけるテスト・・・４観点のとらえ方

・市内35名の先生が参加。

（元八王子中学校教諭　矢沢はるか 記）

立　川　市

Ⅰ．研究主題

「確かな学力の確立をめざす
授業力の向上」
～個性が輝く指導法の工夫～

Ⅱ．活動の経過

◇５月14日　立中教研一斉部会
（立川第六中学校）
・研究主題、日程、予算等の決定
・情報交換

◇７月31日　英語部会
講　演　「４技能を統合した指導の工夫」
―新学習指導要領を踏まえて―
講　師　練馬区立豊玉中学校
津田　雅子　教諭

◇８月25日　英語部会
講　演　「第二言語習得研究にもとづく
語彙指導」
講　師　麗澤大学
望月　正道　教授

◇２月６日　研究授業
授業者　立川第二中学校
山田しのぶ　教諭
講　師　田吉　國子
前立川第二中学校長

◇２月18日　立中教研一斉部会
（立川第七中学校）
・今年度の総括と来年度に向けて

◇３月５日　研究授業
授業者　立川第八中学校
塩原　真一　教諭
講　師　東京大学大学院
佐藤　　学　教授

（立川第五中学校教諭　月尾　洋 記）

武　蔵　野　市

今年度は「子どもたちの発信力を高める授業の工夫～英語学習を支える新しい言語活動の開発～」を研究主題とし、新指導要領の研究、特に「発信力」についての研究を深めた。

10月には、文京区教育センターの中村馨先生を講師にお招きし、新指導要領の主な改訂点について伺い、さらに「発信力」について研究を深めた。講演の内容はもちろんのこと、中村先生に頂いた資料は今後の研究を進める上でも非常に貴重なものであった。

１月には、武蔵野市立第五中学校で研究授業を行った。研究協議を通して、府中市立府中第二中学校の田口徹先生より、「発信力を高める指導法」への助言をいただいた。授業者に対して講師が質問するという形で研究協議を進めたが、翌日からの授業にすぐに活かせるような、大変参考になる助言、具体的なアイディアを頂き、有意義な話し合いをもつことができた。

昨年度より、武蔵野市の中学校は６校とも少人数クラスによる授業を実施しているので、毎回の部会で教材の工夫等も含めた情報交換も定期的に行っている。来年度も新指導要領に関して研究を続けていく予定である。

（第四中学校教諭　古舘祥子 記）

三　鷹　市

Ⅰ．研究主題

「小学校との連携と導入期の指導方法について」

Ⅱ．活動の経過

◇４月23日　市内教研一斉部会

役員の確認、研究内容の検討

◇５月14日　市内教研一斉部会

入門期の授業について

◇６月11日　市内教研一斉部会

小中英語部合同研究授業・協議会

授業者：沖濱のり子（第四小学校）

Nicholas Smith（ALT）

講　師：三鷹第三中学校

校長　安原　美代先生

◇８月27日　市内教研一斉部会

ワークショップ

講　師：駒沢女子大学

准教授　太田　洋先生

内　容：教科書の活用法について

◇９月10日　市内教研一斉部会

研究授業・研究協議会

授業者：河合由樹子、歌田孝久教諭

（第五中学校）

◇11月12日

研修会

テーマ「パフォーマンステストと評価」

講　師：東京外国語大学

教授　根岸　雅史先生

内　容：各校の事例の紹介と協議

（第五中学校教諭　歌田孝久 記）

青　梅　市

Ⅰ．研究主題

「より良い授業の工夫と創造」―小・中の連携を深め、生徒の英語の運用能力・理解力を高めるために―

Ⅱ．活動の経過

◇５月７日

青梅市中学校教育研究会総会

一斉部会

①組織作り

役員体制が変わった。

②研究主題・活動計画協議

部員の総意に基づいて決定。

意識調査アンケートを実施。

◇７月11日　英語部研修会

会　場：青梅市立霞台中学校

内　容：「生徒の意欲の向上に結びつく評価・評定と定期テスト」

※互いのテスト問題を持ち寄り合評会形式で研修を深めた。

「より効果的な授業の工夫」他

→協議の結果、各校の先生方の実践記録を集める試みを実施。

☆８月15日　有志による研修会

外国人観光客向けバスツアー

“FULL DAY SYMPHONIC TOKYO”

に参加。英語によるガイドと参加者との交流を通して有意義な研修ができた。

（第六中学校副校長　田中　眞 記）

府　中　市

Ⅰ．研究主題

「新学習指導要領の研究と分析」

Ⅱ．活動の経過

◇４月９日　府教研部員総会

組織作り、研究主題設定、年間計画作成

◇６月４日　研究授業

授業者：第七中学校

赤羽さつき 教諭

講　師：狛江第一中学校

太田　洋子 教諭

◇８月18日　サマーワークショップ

講　師：府中第二中学校

田口　　徹 教諭

テーマ

「生徒を引きつける授業づくり」

前半は講義中心に授業づくりのポイントを、後半は前半の内容を元に授業案を作成して演示を行なった。

◇10月８日　研究授業

授業者：府中第八中学校

佐藤　久美 教諭

講　師：府中第二中学校

田口　　徹 教諭

◇１月14日　講演会

講　師：筑波大附属中学校

久保野りえ 先生

テーマ

「時間がなくても、良い授業を作る」

◇２月４日　市教研研究総会

（府中第三中学校教諭　後本大輔 記）

昭　島　市

Ⅰ．研究主題

「自己表現力を育てる授業」

Ⅱ．活動の経過

◇４月16日　市中教研一斉部会

・研究主題、年間計画、組織作り

◇５月28日

・ＡＬＴを交え、ＡＬＴ制度の運営についての話し合いをした。

・効果的な評価方法についての話し合い

・指導案紹介

「英文日記を書こう」英作文

「日本の伝統・文化を説明しよう」

Show & Tell

◇ 10月９日　市中教研英語部会

・研究授業　大島弘美教諭

（福島中）

・対　　象　2年生

・授業内容　New Horizon Unit5

音読、教科書の英文理解にポイントをおいた指導

◇ 1月14日　市中教研一斉部会

・研究授業　鴨下香織　教諭

石黒小百合教諭

（拝島中）

・対　　象　１年生　少人数クラス

・授業内容　New Horizon Unit10

canを用いた英文作りや、canを用いた文を使ったインタビュー活動

（多摩辺中学校教諭　八重樫路子 記）

調　布　市

Ⅰ．研究主題

「生き生きと学び、生き生きと教えるために―語彙指導の工夫と改善―」

Ⅱ．活動の経過

◇５月14日　調中研総会、一斉部会、

①本年度役員の確認

②研究主題・内容の検討

◇６月18日　研修会

・内　容：「新学習指導要領について学ぶ」

・講　師：三省堂教科書編集部

編集長　富岡次男先生

◇７月28日　部会

・内　容：(１)研究の進め方

(２)情報交換会

◇10月８日　研修会

・内　容：「これからのWriting―新指導要領を踏まえて―」

・講　師：東京外国語大学

講師　工藤洋路先生

◇11月19日　授業研究

・授業者：渡部　恵（四中）

・授業内容：New Crown 3 Lesson 6

・講　師：調布市教育委員会

指導主事　廣瀬尊貴先生

◇１月13日　授業研究

・授業者：渡辺麻美子（成城学園）

・授業内容：「小学校英語活動」

・講　師：成城学園初等学校

講師　渡辺麻美子先生

◇２月４日　研究発表会

・内　容：「語彙指導の工夫と改善」

・発表者：松村敏以

（第六中学校教諭　松村敏以 記）

町　田　市

Ⅰ．研究主題

「コミュニケーション能力を高める指導法および評価法の工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇４月16日「市中教研一斉部会」

・組織作り

・研究主題と年間計画決定

◇５月15日「市中教研定期総会」

◇８月20日「夏のワークショップ」

・『テスト作成について』

講　師　根岸雅史先生

（東京外国語大学　教授）

・『小中連携した英語教育について』

講　師　安原美代先生

（三鷹市立第三中学校　校長）

◇11月12日「市中教研一斉部会」

『新学習指導要領を読み解く』

講　師　久保野雅史先生

（神奈川大学外国語学部　準教授）

◇２月４日「市中教研研究発表会」

『クラスルーム・イングリッシュについて』

発表者　青木靖先生（小山田中学校）

（金井中学校教諭　丸橋秀哉 記）

小　金　井　市

Ⅰ．研究主題

「生き生きとした言語活動をめざして」

Ⅱ．研究主題について

小学校でも英語教育が定着しつつある現在、中学校における英語教育のあり方も少しずつ変わりつつあります。以前のように、中学校に入った直後はアルファベットから始めるといったこれまでの指導方法ではなく、入学時から文字活動よりも言語活動により重点を置いた指導方法等もこれからは検討していく時期かもしれません。

以上のようなことから、今年度小金井市英語研究部では、より生きたコミュニケーション活動を目指して、主題を上記のように決定しました。

Ⅲ．活動の経過および内容

◇４月　組織作り
　　研究主題の検討および設定

◇６月　ALT授業内容の検討、指導方法
　　・使用ワークシート等情報交換

◇10月　研究会「生き生きとした言語活動を目指して」
　　講師：昭島市立瑞雲中学校
　　教諭　相沢秀和先生

◇11月　各校での授業実践

◇１月　今年度の研究のまとめ

（小金井南中学校教諭　並木　聡 記）

小　平　市

Ⅰ．研究主題

「具体的な場面や状況にあった適切な表現を考えながら言語材料を活用できる言語活動の工夫」

Ⅱ．研究主題について

◇４月23日
・研究主題の確認

◇７月28日　夏季研修会
・内　容：『活用する力の育成』
・講　師：府中市立府中第二中学校
　　教諭　田口　徹　先生

◇７月29日　夏季研修会
・内　容：『活用する力を育成する場面設定の工夫・改善』
・講　師：駒澤女子短期大学
　　准教授　太田　洋　先生

◇８月25日　夏季研修会①
・内　容：『授業の工夫と改善のための教材研究』
・講　師：西東京市立田無第四中学校
　　副校長　池田武男　先生

◇８月26日　夏季研修会②
・内　容：『活用する力を育成するtask』
・講　師：東京外国語大学
　　教授　髙島英幸　先生

◇９月17日　授業研究
・授業者：伊藤雅人先生（小平二中）
・講　師：三菱商事海外子女教育相談室
　　室長　山本新治　先生

◇11月５日　まとめの会
・「指導案づくり」授業改善を目指して
・提案者：稲葉やす子先生(小平一中)

◇２月５日　授業研究
・授業者：原野由美先生（小平三中）

（上水中学校教諭　石浦絵務 記）

日　野　市

Ⅰ．研究主題

「言語活動を積極的に取り入れた授業」

・毎月の部会が、「授業研究を中心として、指導事例を共有し、より良い授業作りのための工夫を学びあう場」になるように設定した。

II. 活動の経過

◇５月14日　＊中教研総会

・本年度の役員の確認

・研究主題の検討

◇６月４日　＊一斉部会

・研究主題決定

・年間計画の決定

・ICTを活用した授業

◇７月３日　＊研究授業

・対　象：平山中　1年生

・授業者　樋口英美 教諭

◇９月３日　＊一斉部会

・ALTを活用した授業

◇10月８日 ＊研究授業

・対　象：三沢中　1年生

・授業者　斎藤　基 教諭

・講　師　石村康代 先生

（新宿区統括指導主事）

◇11月10日＊研究授業

・対　象：平山中　3年生

・授業者　大川京子 教諭

◇１月　＊研究紀要　原稿作成

◇２月18日　＊中教研研究発表会

（日野第三中学校教諭　青柳玲子 記）

東　村　山　市

Ⅰ．研究主題

「実践的授業力の向上」

Ⅱ．活動の経過

◇４月　組織作り

研究主題年間計画検討

◇５月　定期総会

◇７・８月　夏季休業中の研修会

（小平市主催に参加）

◇９月　「英語の歌」について

◇10月27日　研究授業

授業者　木下理佐先生

（東村山第四中学校）

対　象　１年生

講　師　副校長　五十嵐浩子先生

（小平市立小平第五中学校）

◇11月27日　研究授業

授業者　美濃谷ひろみ先生

（東村山第五中学校）

対　象　１年生

講　師　副校長　重松　靖先生

（国分寺市立第五中学校）

◇１月　研究授業

◇２月　研究授業

研究発表会

◇３月　今年度のまとめ

（東村山第四中学校教諭　田中誠一郎 記）

国　分　寺　市

Ⅰ．研究主題

「実践的コミュニケーション能力を育成するための指導と工夫

～「書くこと」を中心として～

Ⅱ．活動の経過

◇４月16日　市中教研一斉部会

組織作り、本年度の活動方針の検討

◇６月４日　講演会

駒沢女子大学准教授　太田　洋

「コミュニケーション能力育成のための指導と評価の工夫」

～書くことを中心に～

◇８月25日　授業改善研修会

指導案の検討

◇10月15日　授業改善研修会　研究授業

「知識や技能を身につけ、活用する力の育成」

第一中教諭　平沼　修子

◇11月12日　市中教研一斉部会

各校における実践報告

◇ １月14日　市中教研一斉部会

研修のまとめ

（第五中学校教諭　瀬口二三子 記）

国　立　市

Ⅰ．研究主題

「コミュニケーションへの関心・意欲を高めるための指導（TT）の工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇国立市実践教育研修会

・４月30日　第１回研修会

講演、組織作り、研修計画作成

・５月21日　第２回研修会

研究主題の決定

・６月４日　第３回研修会

研究主題に沿った教材研究、研究途上で予想される課題の克服に向けた協議

・７月30日　第４回研修会

学習指導案作成と改善のための協議

・９月17日　第５回研修会

学習指導案の完成に向けた協議

・10月29日　第６回研修会

公開授業研究（他教科）

・11月５日　第７回研修会

公開授業研究

・１月21日　第８回研修会

研究紀要の完成に向けた協議

Ⅲ．研究の成果

◇成果

・インタビュー形式の言語活動に積極的に取り組むようになり、コミュニケーションへの関心・意欲が高まった。

・既習の英語表現を使い、ALTに積極的にコミュニケーションを図ろうとする姿勢が見られるようになった。

・ALTの母国の文化に触れることで、異文化に興味を持つようになった。

（第二中学校教諭　菅原弘幸 記）

福　生　市

Ⅰ．研究主題

「基礎・基本の定着」

Ⅱ．研究主題設定の理由・研究のねらい

全ての生徒に基礎学力を徹底し、基礎基本の定着を図ることは、自ら学び、自ら考える力を育てることと共に、「確かな学力を」育成する上で今日の学校教育において、重要な課題である。しかし、福生市は、基本的な学習習慣の形成と学習内容の定着が、充分といえない現状である。以上のことから、本研究主題を設定し、「わかる・できる」ために授業を改善してゆく。家庭学習を含めた学習習慣を確立することと併せて、基礎・基本の定着を中心とする学力の向上を目指すこととした。

Ⅲ．研究計画（取組・内容・方法等）

（1）市内の３校の中学校において、研究授業を行う。研究授業に際しては、授業のねらいを明確にし、基礎・基本の内容を授業の中で確認する。その後の部会において、授業の実践について検証を行う。

（2）各学校ごとで授業改善の取り組みを行う。

各学校ごとで、研究授業を行い、研究を進める。各学校の研究授業後、研究協議を行い、研究を深める。

研究授業

第１回　７月２日　第三中学校にて（小中合同）

第２回　９月９日　第一中学校にて

第３回　10月３日　第二中学校にて

（3）研究の成果を、授業の中や定期テスト等で検証する。

（福生第三中学校教諭　川西輝子 記）

狛　江　市

Ⅰ．研究主題

「小学校との連携について」

II. 活動の経過

◇５月部会・総会

・部長・副部長・会計を決定

・今年度の研究課題・活動計画について討議・検討

◇９月　小学校授業見学

・対象：小学校５年生（和泉小学校）

・授業者：トーマス先生（ALT）

・授業内容：“What ～ do you like?”の導入

◇９月30日　研究授業

狛江第三中学校　　１年生

（榧野先生　橘先生）

講師　山本　展子先生

（都教職員研修センター教授）

Ⅲ　まとめ

小学校における英語活動は、まだ始まったばかりである。中学校側としては、専門教科としてのアドバイスを小学校側にすることはもちろんであるが、小学校での活動内容を理解した上で、１年生が中学校の授業をスムーズにスタートできるようにしていくことが大切である。そのためにも、今後ますます、小学校との情報交換と連携が必要になってくるであろう。各中学校区における「小中連携の日」もおおいに活用しつつ、小学校と連絡をとりあいながら、外国語の授業を充実させていきたい。

（狛江第三中学校教諭　橘　和美 記）

東　大　和　市

Ⅰ．研究主題

「基礎・基本の定着を目指した授業のあり方－書く指導を通して表現力を身につけるために－」

Ⅱ．活動の経過

◇５月14日　市教育研究会一斉部会

・組織、活動方針、活動計画の決定

・本年度の研究主題検討

◇８月27日　研修会Ⅰ

・各校より、授業実践報告

授業で使用しているプリント、定期テスト問題等を持ち寄り、話し合いを行った。

・講師講話　佐野 富士子　先生

（横浜国立大学教授）

ライティング力をつけるための授業について、たくさんのアイディアをいただいた。

◇11月12日　研修会Ⅱ

・研究授業　日下部 善哉　教諭

（東大和一中）

対象者　　３年生

授業内容　Total English 3 Lesson6

・講師講話　立花 千尋　先生

（長浜バイオ大学准教授）

基礎学力とコミュニケーション能力のとらえ方について、お話をいただいた。

（東大和第二中学校教諭　坂口玲子 記）

清　瀬　市

Ⅰ．活動の経過

◇５月７日

市内中学校教科・領域研春季総会研究内容の決定

○小中の連携を通した英語指導の工夫・改善について

○清瀬市立中学校における英語学習ミニマムスタンダードについて

◇９月～12月

各中学校区域の小学校の英語活動の参観

◇11月５日

市内中学校教科・領域研秋季総会清瀬市立中学校における英語学習ミニマムスタンダードの検討・作成

◇１月30日

市内学力向上委員会にてミニマムスタンダードの検討・作成に参加

◇２月10日　公開授業

場　所：清瀬中学校

授業者：西田恵子教諭

単　元：Unit 11　Part 3　（過去形）

（清瀬第四中学校長　廣田幸男 記）

東久留米市

Ⅰ．研究主題

「生徒が意欲的に取り組む授業の工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇５月28日　市授業改善研究会一斉部会

組織作り、研究主題、年間計画の決定、市内情報交換

◇６月18日

研究授業・研究協議会

授業者：中井　正弘教諭（中央中）

授業内容：１年　New Crown Lesson 3

講　師：後関　正明先生

（言語教育文化研究所）

演　題：「中学校教育で今求められていること、今不足しているもの」

◇９月10日

研究授業・研究協議会

授業者：河西　京子教諭（久留米中）

荒光　真衣教諭（久留米中）

授業内容：１年 New Crown DO IT TALK 2

講　師：高橋　貞雄教授（玉川大学）

演　題：「授業分析、授業評価の観点」

「新学習指導要領を踏まえた活動」

◇２月18日　市授業改善研究会一斉部会

20年度反省と21年度計画

（中央中副校長　宮寺　清 記）

武蔵村山市

Ⅰ．研究主題

「英語の教科指導法の工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇４月23日

市中教研一斉部会

・組織編成

・年間事業計画

・研究テーマ設定

◇６月18日

授業研究・研究協議会

授業内容　Let's go shopping!

対　　象　第２学年（中学生）

第１学年（小学生）

・小中連携の英語活動（授業実践）

・小中一貫カリキュラムについて

講　　演　冨山哲也 先生

（文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官）

◇10月29日

授業研究・研究協議会

授業内容　One World 1 Lesson5

対　　象　第１学年

・少人数指導の工夫

・ＡＬＴとのティームティーチング

◇11月19日

市中教研一斉部会

・公開授業ＶＴＲによる授業研究

◇２月18日

市中教研一斉部会

・今年度の活動のまとめ

・次年度の活動計画

（第二中学校教諭　杉本順一　記）

多　摩　市

Ⅰ．研究主題

「ＡＬＴとのＴＴによる生徒の意欲を引き出す指導」

Ⅱ．活動の経過

◇５月14日　英語部会

研究目標、活動方針、組織作り

◇６月11日　第１回研究授業

場　所：多摩永山中学校

授業者：松本　舞教諭

Edward Weinzierl氏

内　容：ＡＬＴとのＴＴによる生徒の意欲を引き出す指導

◇９月22日　第２回研究授業・協議会

場　所：聖ヶ丘中学校

授業者：小暮　敦教諭

Demos Daniels氏

内　容：コミュニケーション活動への興味・関心を高める指導

◇１月14日

ワークショップ（研修会）

場　所：落合中学校

講　師：恵泉女学園大学　岩佐玲子教授

内　容：中学校における英語教育－小学校の英語活動をふまえて

◇１月28日　研究発表会

場　所：和田中学校・青陵中学校

（落合中学校長　山口順一 記）

稲　城　市

Ⅰ．研究主題

「小中連携を考えた英語活動、英語教育」
－具体的に授業案、活動案を小中合同で作成することを通して－

Ⅱ．活動の経過

◇４月23日

研究主題、組織作り、年間活動計画

◇５月14日

小学校英語活動を考えるヒント

講　師：駒澤女子大学
准教授　太田　洋先生

◇６月18日

小中学校における英語指導の連携について

講　師：練馬区豊玉中学校
津田　雅子先生

◇８月25日

小中連携した英語教育

講　師：三鷹市立第三中学校
安原　美代先生

◇８月26日

英語授業の展開の工夫

講　師：駒澤女子大学
准教授　太田　洋先生

◇９月10日

研究授業　若葉台小1年

授業者：教諭　松下　智子
ALT　Ivor M Pugh

講　師：駒澤女子大学
准教授　太田　洋先生

◇10月15日

研究授業　稲城六中1年

授業者：教諭　青木　芳恵

講　師：駒澤女子大学
准教授　太田　洋先生

◇11月12日

英語授業の小鉢作り

講　師：駒澤女子大学
准教授　太田　洋先生

◇１月14日

研究のまとめと次年度への課題

◇２月25日

教育研究発表会

（稲城第二中学校教諭　曾根直子 記）

あきる野市

Ⅰ．研究主題

「表現力を定着させる指導の工夫」

Ⅱ．活動の経過

◇４月16日　一斉部会

テーマ設定、組織、活動計画確認。

◇６月11日　研究授業・研究協議会

授業者　宮崎　大樹　教諭（秋多中）

　　川杉　稔　　教諭（秋多中）

講　師　崎橋　一幸　先生

（神奈川大学外国学部教授）

講　演　少人数指導、評価、input

～intake～outputについて

◇８月25日　授業力向上研修会

模擬授業・パネルディスカッション、小中連携の在り方について、他情報交換

◇10月８日　研究授業・研究協議会

授業者　中村　朋子　教諭（増戸中）

　　青木　玲奈　教諭（増戸中）

講　師　太郎良　博　先生

（東京都教職員研修センター教授）

（前都中英研会長）

（学習指導要領解説書編集員）

講　演　・学習指導要領の改訂と授業の改善

・より良い授業を目指して

◇１月14日　研究授業・研究協議会

授業者　角屋　俊一　教諭（東中）

講　師　中原　明寿　先生

（東京都多摩教育事務所西多摩支所指導主事）

講　演　「表現力の向上」

～新学習指導要領を踏まえた教科指導～

◇３月４日　研究発表会

（西中学校主幹　竹内康裕 記）

西東京市

Ⅰ．研究の経過

◇５月14日　市中学校教育研究会

総会英語部会

（保谷中学校にて）

・本年度英語部役員紹介

・活動方針と活動内容について協議

・情報交換

◇７月25日

夏季研修会（田無第四中学校にて）

・研修テーマ：「絶対評価が導入されて、授業はどのように変わったのか？」

・講　師：武蔵野大学英語・英米文学科客員教授　長　勝彦先生

・実践紹介を中心とした講義と演習

◇11月５日

一斉部会（ひばりが丘中学校にて）

（１）研究授業

・授業者：當麻　忠幸教諭

（ひばりが丘中学校）

・対　象：１年生

・授業内容：Lesson6（三省堂）

“Assistance Dogs”

三人称単数現在の導入

（２）新学習指導要領についての研修

・報告者：池田　武男副校長

（田無第四中学校）

◇その他

市内各校における英語科の初任者研修、十年目研修、等において英語部が支援する。

（田無第四中学校教諭　井上邦彦 記）

羽村・西多摩

Ⅰ．研究主題

「生徒の興味をよび起こし、楽しい授業をすすめる教科指導の工夫」

II. 活動の経過

◇５月21日　西多摩中教研一斉部会

・研究主題と年間事業計画の決定

◇６月25日　羽村市中教研研究授業

・授業者：山中洋介主幹（羽村二中）

・授業内容：Total English1 Lesson3

◇８月22日　夏季研修会

・今年度の研究主題に沿って、各校の活動事例を報告、情報交換した。

・英語授業の実践事例DVDを鑑賞し、生徒の興味をよび起こすことができるような活動について話し合いを行った。

◇11月13日　研究授業・研究協議会

・授業者：植田敏幸教諭（氷川中）

・授業内容：Total English2 Reading

「泣いた赤鬼」

・講　師：田吉國子先生

（元立川第二中学校校長）

・協議会では、グループ読み、音読指導、身近な題材・場面設定を活用した授業内容について協議した。

（瑞穂中学校教諭　清水裕径 記）

大　島　町

Ⅰ．研究主題

「ＡＬＴの活用と授業法」

Ⅱ．活動の経過

◇４月23日　町中学英語研究会

①平成19年度活動報告

②平成20年度組織作り

役員選出・研究主題の設定・年間活動計画の検討

③ALTとの授業に関する情報交換

◇６月18日　教育研究会英語部会

①副教材の検討

②情報交換と検討

◇10月22日

①研究授業

場　所：第三中学校

対　象：第３学年

授業者：吉本　洋人先生

②情報交換

◇11月26日

①研究授業

場　所：第二中学校

対　象：第２年生

授業者：谷所　篤先生

◇２月４日

①研究授業(予定)

場　所：第一中学校

対　象：第２学年

授業者：松島　睦麿先生

②研究協議：本年度の反省と来年度の課題

（第三中学校教諭　吉本洋人 記）

平成20年度

中英研事業報告

1．４月22日（火）役員会
於：南大塚文化創造館
①役員組織等の確認
②年間事業計画の検討
③中英研定期総会に向けて
④役員会の日程
⑤関ブロ長野大会
⑥全英連関係等

2．５月９日（金）定期総会･懇親会
於：豊島区立勤労福祉会館
①19年度事業報告
②19年度決算報告
③19年度会計監査報告
④ 新役員の承認
⑤20年度基本方針の承認
⑥20年度事業計画・予算の承認
◎懇親会

3．６月12日（木）役員会
於：南大塚地域文化創造館
①全中連中学校部研究協議会ついて
及び全英連全国大会について
②関ブロ長野大会について
③地区部長、幹事名簿について
④十五大都市広島大会について
⑤中英研だよりについて
⑥サマーワークショップ関係
⑦コミュニケーションテストについて
⑧都中英研部長・幹事会について

4．７月10日（木）
「都中英研だより」第55号発行

5．７月25日（金）
全英連中学部会研究協議会
於：国立オリンピック記念青少年
総合センター
講演：「新学習指導要領の実施にむけた課題」
講師：平田　和人　氏
（前文部科学省初等中等教育局教科調査官）

6．７月30日（水）役員会
於：南大塚地域文化創造館
①関ブロ長野大会進捗状況
②サマーワークショップ関係

7．７月～８月
中英研学力調査問題の作成

8．7月28日（月）第１回研究部夏期語い
指導ワークショップ
於：江東区立深川第八中学校
指導者：石井　亨
（江東区立深川第八中学校教諭）
関口　智
（葛飾区立常盤中学校教諭）
原田　博子
（中央区立銀座中学校教諭）
８月８日（金）第２回研究部夏期語い
指導ワークショップ
於：中央区立銀座中学校
指導者：北原　延晃
（港区立赤坂中学校教諭）
岡崎　伸一
（品川区立小中一貫校日野学園教諭）
岸　由季
（町田市立山崎中学校教諭）
８月21日（木）第３回研究部夏期語い
指導ワークショップ
於：板橋区立高島第三中学校
指導者：鶴田　峰子
（中央区立銀座中学校）
佐々木孝紀
（江東区立深川第八中学校）
石井　亨
（江東区立深川第八中学校）

9．８月28日（木）役員会
於：豊島区立西池袋中学校
①関ブロ長野大会について
②全英連鹿児島大会について
③コミュニケーションテスト問題の検討

「区市町村英語教育研究部部長会・幹事会」
①新学習指導要領について
②関ブロ東京大会について
③各地区の活動状況について
＜講演会＞
「これからの中学校英語教育について」
新里眞男先生
(元文部科学省教科調査官)

10. 9月30日（火）役員会
於：南大塚地域文化創造館
①関ブロ長野大会関係
②全英連鹿児島大会について
③全英連東京大会について

11. 10月17日（金）
第48回15大都市公立中学校英語
教育研究連絡協議会
於：広島市

12. 10月30日（火）役員会
於：南大塚地域文化創造館
①関ブロ長野大会について
②全英連東京大会について
③各種研修会報告

13. 11月7日（金）
第32回関ブロ長野大会
於：上田市民会館
主題「国際社会の中で生きる力を育てる英語教育」
—知識・技能の習得とその活用を図る指導を通して—

14. 11月11日（火）役員会
於：南大塚地域文化創造館
①全英連全国大会今後の予定
②関ブロ長野大会について
③関ブロ東京大会について
④コミュニケーションテストについて
⑤研究部授業公開と研究発表について

15. 11月13日（木）授業力アップ研修会
於：練馬区立八坂中学校
授業者：伊地知可奈
練馬区立八坂中学校教諭
講　師：山本　展子
前都中英研副会長

16. 11月21日（金）22日（土）
第57回全国英語研究大会鹿児島大会
於：鹿児島市民文化ホールほか
①関ブロ神奈川大会、全英連福島大会の報告

17. 11月21日(金)
「都中英研だより」第56号発行

18. 12月7日（日）
第61回英語学芸大会
於：東洋学園大学本郷キャンパス

19. 1月14日（水）役員会
於：南大塚地域文化創造館
①研究部発表会の準備
②平成21年度役員人事案
③全英連組織改善について
④関ブロ東京大会について

20. 2月17日（火）役員会
於：南大塚地域文化創造館
①研究部発表会について
②平成21年度役員人事について
③次年度活動計画について
④関ブロ東京大会について

21. 2月23日（金）中英研研究部発表会
於：東村山市立第二中学校
①研究授業：谷口　弘美教諭
②研究発表：「重要動詞のコロケーション調査」
③研究協議：パネルディスカッション

22. 3月10日
「中英研会報」第67号発行予定

23. 3月23日（木）役員会
於：南大塚地域文化創造館
①20年度各部事業報告
②20年度決算報告
③次年度新役員構成の確認
④次年度総会について
⑤情報交換
⑥研修会

（総務部長：飯島　光正 記）

東京都中学校英語教育研究会会則

第１章　総　　則

第１条　本会は東京都中学校英語教育研究会と称する。
第２条　本会は事務局を会長指定の場所に置く。
第３条　本会は東京都中学校の英語教育関係者を会員とする。

第２章　目的及び事業

第４条　本会は中学校英語教育に関する事項を研究し、会員の識見の向上に努めると共に、英語教育の振興を図ることを目標とする。
第５条　本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
1．各種研究会の開催（研修会、発表会、講演会等）
2．調査活動（コミュニケーションテストの作成とその分析、調査活動等）
3．研究調査（英語教育に関わる基礎的かつ実践的な課題等）
4．各種英語教育団体との連絡
5．機関誌発行、本会の目的達成に必要な事業

第３章　役員及び幹事

第６条　本会には次の役員および幹事をおく。
1．会長１名
2．副会長若干名
3．部長各部ごと１名
4．副部長各部ごと若干名
5．会計監査２～３名
6．幹事各区市ごとに１～２名
第７条　役員の選出は次のとおりとする。
1．会長・副会長は役員会の推薦により、総会の承認を得なければならない。
2．部長・副部長は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
3．会計監査は役員会の推薦により、会長が委嘱する。
第８条　役員の任務は次のとおりとする。
1．会長は本会を代表し、会務を総括する。
2．副会長は会長を補佐し、会長に事故あるときはその職務を代行すると共に、各部を分担する。
3．部長は担当副会長と協議の上、部会を召集し、会務を執行する。
4．幹事は本部との連絡にあたる。
5．事務局は総務部が担当し、事務局長は総務部長があたる。
6．会計監査は会計の監査を行い、その結果を総会に報告する。
第９条　役員の任務は１年とする。ただし再任を妨げない。

第10条　本会に相談役、参与及び顧問をおくことができる。

1．相談役はOB会長及び副会長より、参与は現職校長より役員会の推薦により会長が委嘱する。

2．顧問は英語科出身の指導主事より会長が委嘱する。

第4章　会　　議

第11条　会議は次のとおりとする。

1．総　会

毎年1回会長が召集し、会務の報告、役員の人事、予算、決算等を審議し、決定する。ただし、必要がある場合は臨時に開くことができる。

2．役員会

会長・副会長・部長をもって構成し、必要に応じて副部長・会計監査を加え、会長の諮問機関とする。

3．幹事会

役員・幹事をもって構成し、学期1回以上例会を開き、会務を執行する。

4．部　会

［総務部］庶務・会計・渉外および他部に属さない事項の処理

［事業部］会の年間計画・英語学芸会・研修会、その他会長より委嘱された事業の立案・計画・推進

［調査部］コミュニケーションテスト及び英語教育に関する調査の実施

［出版部］中英研だより・会報などの発行

［プロジェクト・チーム部］英語教育に関わる今日的かつ実践的な課題についての研究の推進

第5章　会　　計

第12条　本会の会費は東京都中学校研究会よりの交付金をもってあてる。

第13条　本会の経費は会費およびその他の収入による。

第14条　本会の予算・決算は総会の承認を得なければならない。

第15条　本会の会計年度は4月1日に始まり、翌年3月31日に終わる。

第6章　付　　則

第16条　本会則は昭和60年4月1日より実施する。

第17条　本会則の変更は総会の承認を得なければならない。

第18条　細則は幹事会で定めることができる。

第1次改定　第5条2、3及び第4章4は平成17年5月19日より実施する。

平成20年度　東京都中学校英語教育研究会役員名簿

役名	氏名	所属校	職名
会長	備里川正人	足立区立第十四中学校	校長
副会長	竹下賢	板橋区立第四中学校	〃
〃	清水研一郎	江東区立南砂中学校	〃
〃	田幸徹	足立区立花畑北中学校	〃
〃	西正弘	小平市立小平第四中学校	〃
〃	井田宗宏	東大和市立第二中学校	〃
〃	廣田幸男	清瀬市立第四中学校	〃
〃	安原美代	三鷹市立第三中学校	〃
総務部長	飯島光正	豊島区立西池袋中学校	〃
経理部長	牛島順子	港区立赤坂中学校	〃
副部長	鳥海重年	中野区立中央中学校	〃
〃	福井正仁	港区立港陽小学校	〃
〃	石川真知子	江東区立亀戸中学校	主幹
〃	藤原進	大田区立矢口中学校	教諭
部員	田中誠一郎	東村山市立第四中学校	〃
〃	福島恵子	練馬区立田柄中学校	〃
〃	近藤浩	東久留米市立久留米中学校	〃
〃	堀之内國義	足立区立第十三中学校	〃
〃	石川容子	足立区立第十二中学校	〃
〃	新野美紀	西東京市立田無第三中学校	〃
〃	滝口均	渋谷区立本町中学校	〃
〃	長尾諭	大田区立石川台中学校	〃
〃	佐々木昭央	目黒区立第九中学校	〃
調査部長	重松靖	国分寺市立第五中学校	副校長
副部長	五十嵐浩子	小平市立小平第五中学校	〃
〃	刀根武史	小金井市立東中学校	〃
〃	本多敏幸	千代田区立九段中等教育学校	教諭
部員	今井一憲	中野区立第二中学校	〃
〃	阿久津仁史	文京区立第八中学校	主幹
〃	兼子真季	文京区立本郷台中学校	教諭
〃	斉藤豊	江東区立第二南砂中学校	〃

役名	氏名	所属校	職名
部員	白井靖子	江東区立 第二大島中学校	教諭
〃	佐藤恵美	墨田区立 文花中学校	〃
〃	白川智恵子	練馬区立 大泉北中学校	〃
〃	小椋由紀子	荒川区立 第三中学校	〃
〃	伊地知可奈	練馬区立 八坂中学校	〃
〃	大森博	練馬区立 中村中学校	〃
〃	大澤陽子	新宿区立 牛込第三中学校	〃
〃	木村弘恵	世田谷区立 上祖師谷中学校	〃
〃	三木謙二朗	大田区立 馬込中学校	〃
〃	田中すみ子	豊島区立 西巣鴨中学校	〃
〃	阿坂眞人	三鷹市立 第一中学校	〃
〃	川口三保子	府中市立 府中第六中学校	〃
〃	岸川裕子	府中市立 府中第一中学校	〃
〃	野口哉寿子	小平市立 第六中学校	〃
〃	野田まり子	瑞穂町立 瑞穂第二中学校	〃
〃	瀬谷光子	世田谷区立 芦花中学	〃
〃	山下郁子	世田谷区立 校松沢中学校	〃
〃	宮崎大樹	あきる野市立 秋多中学校	〃
事業部長	横山達也	多摩市立 和田中学校	教諭
副部長	田口徹	府中市立 府中第二中学校	〃
〃	田島久士	世田谷区立 喜多見中学校	〃
〃	相沢隆二	文京区立 第一中学校	〃
部員	米澤登志子	中野区立 緑野中学校	〃
〃	多田渉	大田区立 大森第二中学校	〃
〃	吉澤ひとみ	足立区立 千寿桜堤中学校	〃
〃	明石達彦	千代田区立 九段中等教育学校	〃
〃	大屋剛	練馬地区中高一貫6年制学校開設準備室	〃
〃	雲出和子	にしみたか学園三鷹市立第二中学校	〃
〃	斉藤節子	清瀬市立 清瀬第二中学校	〃
〃	竹中敬子	都立城南養護学校	〃
〃	漆畑拓也	世田谷区立 船橋中学校	〃

役名	氏名	所属校	職名
研究部長	北原延晃	港区立赤坂中学校	教諭
副部長	石井亨	江東区立深川第八中学校	〃
〃	鶴田峰子	中央区立銀座中学校	〃
〃	関口智	葛飾区立常磐中学校	〃
部員	二宮正男	新宿区立西戸山中学校	主幹
〃	原田博子	江東区立深川第一中学校	教諭
〃	渓内明	足立区立第十中学校	〃
〃	杉本薫	都立両国高等学校付属中学校	〃
〃	岸由季	町田市立山崎中学校	〃
〃	矢木美記子	板橋区立高島第三中学校	〃
〃	岡崎伸一	品川区立日野学園中学校	〃
〃	坂田恵子	北区立飛鳥中学校	〃
〃	福井洋子	町田市立南中学校	〃
〃	金子健次郎	大田区立大森第七中学校	〃
〃	横山牧子	狛江市立狛江第一中学校	〃
〃	永松朋美	江東区立第三砂町中学校	〃
〃	榎本真爾	足立区立鹿浜中学校	〃
〃	佐々木孝紀	江東区立深川第七中学校	〃
〃	川崎慶介	新島町立新島中学校	〃
〃	上尾栄美子	足立区立竹の塚中学校	〃
〃	江濱悦子	大田区立貝塚中学校	〃
〃	中川智子	大田区立大森第十中学校	〃
出版部長	池田武男	西東京市立田無第四中学校	副校長
副部長	平林澄子	練馬区立中村中学校	教諭
〃	渡辺雅子	足立区立六月中学校	〃
〃	小柳守生	文京区立第十中学校	〃
部員	萩原時男	文京区立第三中学校	主幹
〃	下路博朗	足立区立第四中学校	教諭
〃	三岡一隆	練馬区立石神井西中学校	〃
〃	今本由美子	練馬区立大泉中学校	〃
〃	中井正弘	東久留米市立中央中学校	〃

役名	氏名	所属校	職名
部員	赤塚貴音	台東区立桜橋中学校	教諭
〃	鈴木咲子	東村山市立第七中学校	〃
〃	岡部芳枝	文京区立文林中学校	〃
〃	塩田裕明	練馬区立大泉中学校	〃
ＰＴ部長	石川賢司	墨田区立墨田中学校	副校長
副部長	松永透	西東京市立田無第二中学校	〃
〃	佐藤順一	墨田区立文花中学校	教諭
部員	原田博子	江東区立深川第一中学校	〃
〃	上尾恵美子	足立区立竹の塚中学校	〃
〃	岸川裕子	府中市立府中第一中学校	〃
〃	大内由香里	江戸川区立葛西第三中学校	〃
〃	小柳守生	文京区立第十中学校	〃
〃	下田文子	多摩市立諏訪中学校	〃
〃	角田幸彦	墨田区立鐘淵中学校	〃
〃	中谷愛	多摩市立東愛宕中学校	〃
〃	後藤美由紀	三鷹市立第二中学校	〃
会計監査	大野容義	青梅市立第一中学校	校長
	稲葉秀哉	板橋区立赤塚第二中学校	〃
	和田文宏	世田谷区立桜丘中学校	副校長

平成20年度　顧問

氏　名	役　職
高野敬三	教育庁指導部長
松岡敬明	東京都教職員研修センター研修部教育開発課長
原田承彦	練馬区教育指導課長
宇田　剛	青梅市指導室長
新庄恵子	国分寺市指導室長
小澤哲郎	教育庁指導部高等学校教育指導課統括指導主事
川越豊彦	教育庁都立学校教育部高等学校教育課統括指導主事
瀧沢佳宏	教育庁人事部試験室統括指導主事
坂本純一	東京都教職員研修センター研修部専門教育向上課統括指導主事
宮野　聡	東京都教職員研修センター研修部授業力向上課統括指導主事
奈良本俊夫	西部学校経営支援センター支所統括学校経営支援主事
石村康代	新宿区教育委員会統括指導主事
難波浩明	北区教育委員会統括指導主事
岩崎紀美子	教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事
市村裕子	教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事
渋谷寿朗	教育庁都立学校教育部高等学校教育課指導主事
中原明寿	多摩教育事務所西多摩支所指導主事
君塚佳昭	東京都教職員研修センター研修部授業力向上課指導主事
林　宣之	東京都教職員研修センター研修部教育経営課指導主事
長嶋浩一	西部学校経営支援センター支所学校経営支援主事
平岡栄一	荒川区教育委員会指導主事
木内苗津子	世田谷区教育委員会指導主事
田原弘一	杉並区教育委員会指導主事
西貝裕武	足立区教育委員会指導主事
廣瀬尊貴	調布市教育委員会指導主事
大宅完志	狛江市教育委員会指導主事
阿部啓介	東大和市教育委員会指導主事
重山直毅	清瀬市教育委員会指導主事

参　　与

氏　名	学　校　名	職　名
佐藤榮一	港区立港陽中学校	校　長
岩崎正道	世田谷区立緑丘中学校	〃
中村貴美子	世田谷区立梅丘中学校	〃
山崎　勉	世田谷区立東深沢中学校	〃
岡部正直	世田谷区立三宿中学校	〃
島本環樹	渋谷区立笹塚中学校	〃
菅野武彦	杉並区立松渓中学校	〃
斉藤　進	荒川区立尾久八幡中学校	〃
阿字宏康	板橋区立西台中学校	〃
大山　明	練馬区立田柄中学校	〃
中野利彦	足立区立江南中学校	〃
荒川善則	足立区立花保中学校	〃
本庄文男	足立区立谷中中学校	〃
石鍋　浩	足立区立新田中学校	〃
余野直紀	葛飾区立高砂中学校	〃
鈴木博久	八王子市立第二中学校	〃
小谷野良行	八王子市立甲ノ原中学校	〃
鈴木茂生	八王子市立鑓水中学校	〃
増澤　強	武蔵野市立第五中学校	〃
岡崎美昭	青梅市立新町中学校	〃
西　正広	小平市立小平第四中学校	〃
山崎好美	稲城市立稲城第三中学校	〃
竹澤　正	稲城市立稲城第四中学校	〃
浅倉隆壽	昭島市立清泉中学校	〃
中島理智	西東京市立田無第三中学校	〃
山口順一	多摩市立落合中学校	〃
和田雅光	青ヶ島村立青ヶ島中学校	〃

あ と が き

「都中英研会報　第67号」が出来上がりました。今回の会報では、特に、二つの編集企画を立ててみました。一つは、昨年３月末に示されました新学習指導要領に関する記事を掲載すること、そしてもう一つは、都内各地区の英語研究部の活動報告の充実を図ることでした。

まず、新学習指導要領をとらえるためには、改訂に直接かかわられた、文部科学省初等中等教育局教育課程教科調査官の菅正隆先生に、ご示唆を賜るしかないものと考え、思い切って原稿執筆の依頼に臨みました。すると、菅先生から快諾を得られ、貴重なご意見を頂戴することができました。菅先生には、厚く御礼を申し上げます。

菅先生からのご指摘の通り、私たち中学校英語科教員が、今回の学習指導要領の改訂において、強く関心を高めなければならない点は、小学校の外国語活動についての動向です。中学校１年生で行ってきた入門期の学習など、長く続いてきた中学校の英語教育の指導方法と指導内容を改めざるを得ないものと考えられます。中学校の英語教育が揺るぎなく発展するためには、従前より一層の自己研鑽を積むしかありません。本誌には、別途、小学校の外国語活動についての関連内容も掲載しましたので、各会員の皆様のお役に立つことができれば幸いです。今後も、この課題につきましては、情報を提供していく所存です。

もう一つの編集企画として試みたのは、23区、26市、１群、10島しょ地区にまたがる都の広大な地区（都中英研では、各英語教育研究部を計58地区としています）の各活動を紹介することでした。この企画につきましては、過去に、断念せざるを得ない実情がありました。それは、紙ベースの原稿依頼と原稿送付では、時間的・費用的な問題があったのも確かです。また、主な活動報告が記録掲載できない各地区の組織上の事情等もありました。そのため、長年にわたり、多くの地区が本誌への掲載をすることなく、失礼して参りました。

そこで、メールやファクシミリを活用して、編集作業を行いました。各地区部長の皆様のご理解が得られ、全区・全市からのご回答が得られましたこと、感謝の念に絶えません。都の各地区の活躍に目を向けることも都中英研の使命です。その意味では、本誌の真の目的に届くものが出来上がったと自負しております。今後とも、ご協力よろしくお願いいたします。

最後になりましたが、本誌の発行にあたり、お忙しい中ご執筆いただきました多くの先生方に、あらためましてお礼申し上げるとともに、会員の先生方の一層のご発展をお祈りいたします。

（都中英研出版部長　池田　武男）

都中英研会報　第67号

平成21年３月２日印刷
平成21年３月６日発行

発　行　者　東京都中学校英語教育研究会
代表者　備里川　正人

発　行　所　東京都中学校英語教育研究会
東京都足立区立第十四中学校
東京都足立区本西竹の塚１－８－１
ＴＥＬ (03) 3899-1191

印　刷　所　（株）オフィス・サンライズ
東京都大田区鵜の木2-12-10
ＴＥＬ (03) 5741-3146